豊橋市制施行100周年記念

校区のあゆみ

中野

豊橋校区史 34

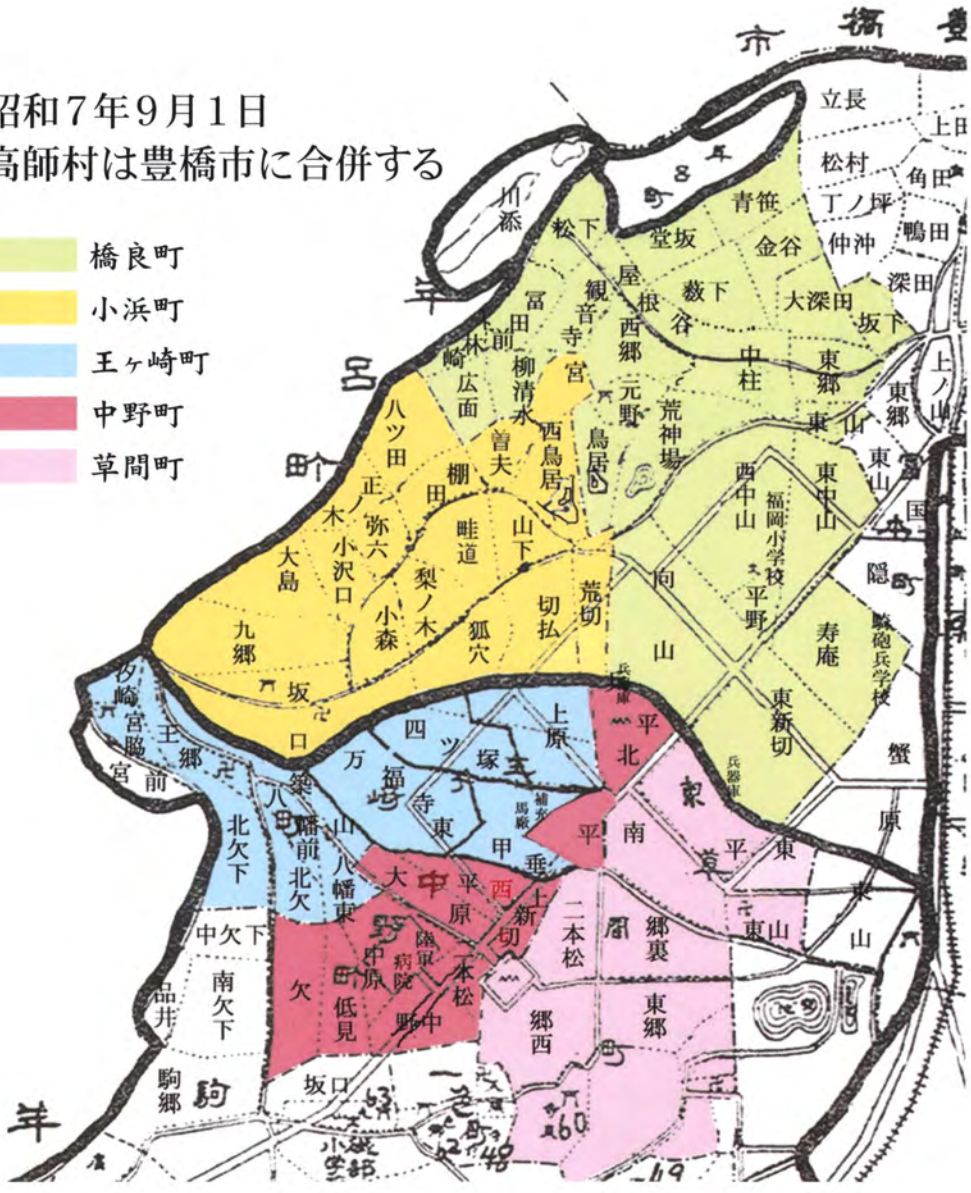
Nakano

写真撮影：小林春吉氏

校区のあゆみ 中野

昭和７年９月１日
高師村は豊橋市に合併する

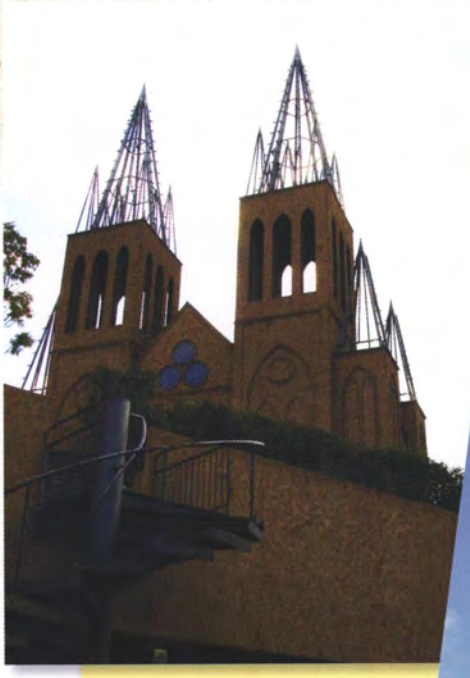
- 橋良町
- 小浜町
- 王ヶ崎町
- 中野町
- 草間町



大崎街道
イチヨウ並木

南陽通り

中野校区に見られる建造物



各町の祭り

発刊によせて

平成18年度
豊橋総代会長
西　義雄

このたび、豊橋市制施行100周年を記念し、「豊橋校区史～校区のあゆみ」を発刊する運びとなりました。皆様のご協力により記念事業にすばらしい彩りを添えることができましたことを、心よりうれしく思います。

この事業は、100年の節目を契機に地域の歴史や文化、自然などを改めて見つめ直し、将来の夢に思いを馳せていただくものであり、51校区すべてが足並みを揃え発刊できたことに、たいへん大きな意義を感じています。また、各校区におきましては、編集委員を中心に多くの地域住民の皆さんが資料の収集や原稿の執筆などに携わられたことと思います。こうした取組みを通し、地域の絆がさらに深まったものと考えています。

地域イベントの開催を含め「市民が主役」を合言葉に行政と協働で進めてきた100周年記念事業ですが、多くの地域住民の方々が様々な形で挙って参加できたことが何よりの成果であったと思います。今後におきましても、この100周年記念事業を一過性のものに終わらせるのではなく、次の100年に繋げていかなければならないと考えています。

最後に、本校区史の発刊にあたり、多大なご協力を頂いた多くの皆様に改めてお礼を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

平成18年度
中野校区総代会長
芳賀正芳

中野校区の皆さま。

このたび、市制施行100周年記念事業のひとつとして「中野校区史」ができましたのでお届けします。

中野校区ができて、ことしで21年、いま7か町に多くの人びとが住み、働いています。むかし、上原の台地はすべて原野でしたが、その裾の低地には縄文のむかしから人が住み、江戸時代にはりっぱな郷村がありました。台地の多くは明治の末から兵営でしたが、戦後は急速に市街化が進みました。歴史と伝統をもった古くからの村とイチョウ並木と整った街並とが溶け合って、個性のある校区が育ちました。

わたくしたちのくらしは心と物の複合した機能が調和していないと進展はできません。その源泉のひとつは中野小学校です。子どもたちは「なかよく、かしこく、のびゆく子」を合言葉に、次代を担っていこうとしています。この子たちのふるさとはこの「中野」です。わたくしたちは先人の労に学び、志高く生きるに価する中野を築き、誇りある「ふるさと中野」をこの子たちに伝えていきたいとおもいます。

この願をこめて、多くの人たちのご協力でできたこの本が、中野の輝かしい未来の礎になりますよう、皆さまと共に期待してやみません。

目　次　CONTENTS

第１章　自然と環境

1　土地の様子 …… 7

2　気候と災害 …… 10

第２章　歴史と生活

1　文化のあけぼの「小浜貝塚」 …… 12

2　神社と寺院 …… 14

（1）小浜神明社 …… 14

（2）境内社 …… 14

（3）庚申堂 …… 15

（4）万福寺 …… 16

（5）観音様 …… 17

3　第15師団と共に …… 18

（1）師団誕生と変遷 …… 18

（2）校区に残る師団の面影 …… 19

4　戦後の復興 …… 21

（1）戦後の南部地区 …… 21

（2）校区の大商業地域 …… 21

（3）校区に進出してきた企業・公共施設 …… 21

5　農業の発展 …… 25

（1）新田開発 …… 25

（2）江戸時代の農民の暮らし …… 25

（3）明治・大正時代の農業 …… 26

（4）耕地整理組合・土地区画整理組合 …… 27

（5）戦後の農業 …… 28

（6）校区に残る農業地帯 …… 29

6　校区の主な活動 …… 30

（1）行政上の各町の歴史的背景 …… 30

（2）中野校区体育祭 …… 31

（3）各町内のお祭り、盆踊り大会 …… 31

（4）成人式 …… 33

（5）社会を明るくする運動 …… 33

（6）敬老会 …… 34

（7）しめ縄作り …… 34

（8）子ども会活動 …… 34

（9）老人クラブ活動 …… 34

第３章　教育と文化

1　中野小学校の誕生 …… 35

2　中野小学校の教育活動 …… 37

（1）開かれた学校・特色ある学校づくり …… 37

（2）中野小学校の教育を支えるＰＴＡ活動 …… 41

3　中野の文化活動 …… 43

（1）中野文化協会の活動 …… 43

（2）中野校区市民館の活動 …… 47

中野校区に関わる歴史年表 …… 48

参考文献・編集後記 …… 52

表紙：北東より校区を望む

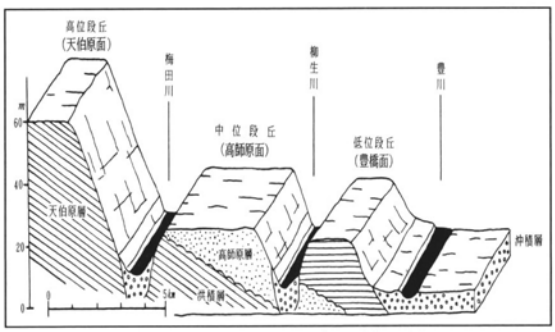
第1章　自然と環境

1　土地の様子

中野小学校の屋上から北や西の方向を眺めると、なだらかに低くなっていく地形に気づく。このような地形は、豊橋平野全体の地形を形成したといわれる豊川が作ったものであることを、元愛知県自然環境保全審議会専門委員である池田芳雄先生は次のように説明されている。

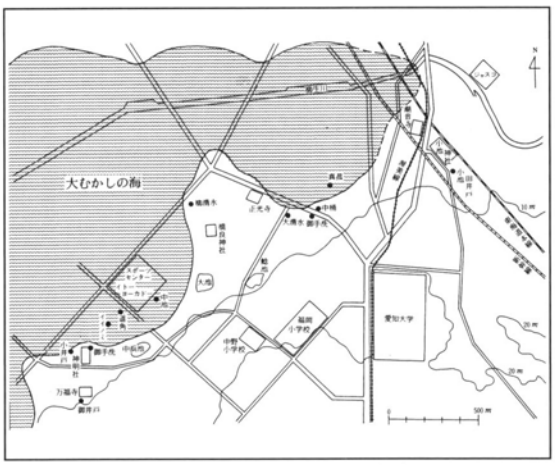
『今からおよそ20万年前の豊川は、今の豊橋市街地付近を通り抜け、太平洋に向かって流れていました。それは、豊川上流の礫（小石）が渥美半島の太平洋側で見られることから分かります。やがて、渥美半島がもりあがり天伯の台地が高くなりました。その結果、豊川は、より低い三河湾へと流れるようになりました。その豊川の河岸段丘として形成されたのが高師原台地です。高師原台地は、今からおよそ２万年前から20万年ぐらい前の第四紀洪積層と呼ばれています。大小さまざまな小石の混ざった礫層、黄色味を帯びた砂の層、赤味を帯びたシルト層などが堆積されています。全国的に有名な高師小僧（愛知県指定天然記念物の褐鉄鉱、植物の根の周りに水酸化鉄が沈着してできたもの）もこの地層に分布しています。中野校区の南側の高い部分もこの第四紀洪積層の上にあります。北側の低い部分は、約２万年前から現在までに堆積したり、海だったところを埋め立てた土地で沖積層と呼ばれています。』

上記のように中野校区は、柳生川と梅田川にはさまれた沖積平野・洪積台地の一部にあたる。１万年前（縄文時代頃）は、小浜貝塚付近まで海岸線が入り込んでいたといわれている。海岸線こそ校区に残ってはいないが、



豊川下流の段丘分布と断面図
（「福岡　むかしと今」より）

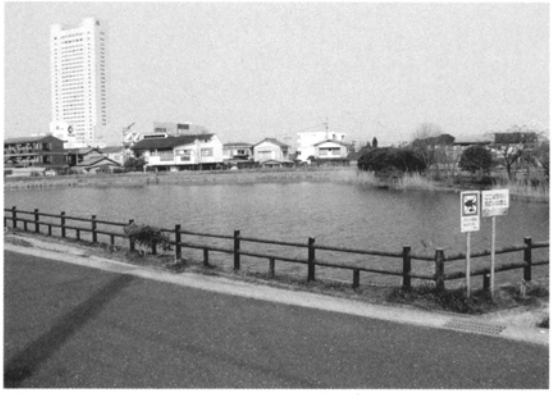
現在の中野小学校の海抜が19m、小浜町が１m前後から10数m、中野町や草間町の高いところでも19～20mと低い土地の校区といえる。



大昔の海岸線と清水の分布
（「福岡　むかしと今」より）

高師原は南東部が高く北西部に低く傾いており、弓張山系や高師原に降った雨が礫や砂の層を透過し、粘土層の上を流れ下り、段丘崖の下の標高３～５mの沖積地で清水や泉として湧き出し池を形成してきた。これが、大

池、中浜池（昔は、やなぎ池と呼んでいた）である。以前は、大池の東にボッチ池があった。これらの池は、周りが水田であった頃は灌漑用のため池であったが、水田の減少とともに全部または一部が埋め立てられ、護岸整備とともに公園などに変わってきた。水草やヨシの量も減ってきている。隣接する橋良町にある鯰池と比べると、なぜか水鳥は少ないように思われる。



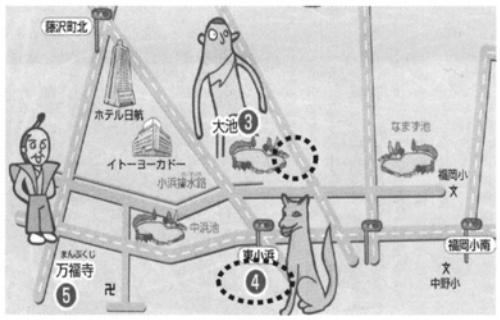
大　　池

中　浜　池

池ばかりでなく、以前にはきれいな清水の湧く田井戸が多くあったそうである。小浜方面には万福寺南にあった御井戸（殿様が風呂水として使ったといわれる）、小井戸（一般の人が飲料水としたり、洗濯に使った）、小浜神社の御手洗、中池、道角、イイノミがあった。学校にプールが無い頃には、子供の水遊び場として使われたこともあった。今ではそれらは姿を消し、宅地や畑に変わっている。

《中野校区に伝わる昔話》

（「わらべぐさ　福岡のむかしばなし」より）



ボッチの池

「村長様大変です。頭が雲まで届くような大男が村へ来るかもしれません。」やがて、ズシン、ズシンと地響きのような足音がして、大きな袋を担いだ大男がやってきました。

村長たちは、地べたにはいつくばって頭をさげました。村長たちが自分を恐れているのに気づいた大男は、にこにこしながらいいました。

「これ、これ、心配するな。わしはダイダラボッチという者で、悪い者ではない。諸国を回って田畑の作り方を教えているのだ。」

稲を作りたくても、水がなくて田んぼができないことを聞いたダイダラボッチは、「そりゃあ気の毒なことだ。わしが池をつくってやる。」といって、あたりを見回し、少し低い土地に目をつけ、片足をぐっと踏ん張りました。足が地面にめり込んでいきました。足あとの穴からは、こんこんと水がふきだし、あしあとの形の大きな池になったのです。ダイダラボッチは、田んぼの作り方や稲の育て方を教え、担いでいた袋から種もみをだして村人に与えて、立ち去って行きました。村人たちは、この池を「ボッチの池」と呼ぶようになりました。この池は小浜の大池のすぐ東にありました。時代が移り変わって、今は、埋め立てられて住宅や店が建っています。

山ぎわのきつね

（「わらべぐさ
福岡のむかしばなし」より）

東小浜のあたりを「山ぎわ」といっとった昔の話じゃ。丘の雑木林のあちこちにきつねがたくさん住みついとったそうな。ある年のこっちゃ。夏も終わりに近い頃にのう、八助じいさまの家で寄り合いがあったんじゃ。秋祭りの相談をしている内に夜もふけてきてのう。話もあらかたすんで、みんながお茶を飲んどるとのう、八助じいさまの家をトントントントンとたたくもんがあるんじゃ。

「お入りとくれましょう。」と八助じいさまがいうても入ってくるわけでもねえ、板の破れたとっから表の人のちょうちんも見えたんじゃと。また、戸をたたくでねえか「こんな夜ふけに何の用だのう。」といいながら表戸をあけると、ちょうちんのあかりがすーと消えたんじゃ。

人影も何もねえ。「山ぎわの悪ぎつねめ、またおらをからかいにきおったな。わりいことをしゃあがると、しょうちせんぞ。」じいさまは石ころを暗やみに投げつけてみたが、何の手応えもねえ。この話を聞いた村の若い衆んとうが怒ってのう。「八助じいさまをからかったと。じいさまの敵をおらんとうで打ってやるべえ。」「とんがらしできつねの穴をいぶしてやるべえか。」話がきまりゃあ、やる事ぁ早い。きつねどもが寝こむ頃を見はからって、とんがらしをつめこんだ麦からをあっちこっちの穴につっこみ、火をつけたんじゃ。とんがらしのいぶる煙が、きつねの穴ん中にもくもく入っていきよった。こんなことをされちゃ、きつねども、たまったもんじゃあねえ。のどが痛くなるやら涙がこぼれるやらで、次々と穴から飛び出してのう、山の奥へいちもくさんに逃げていきよったんじゃと。

《　地　名　の　由　来　》

小浜村は、江戸時代の初めに橋良村から分かれて生まれた。分かれる前、橋良の部落を「大郷」、小浜を「小郷」と呼んでいた。そのころはすぐ近くまで波の打ち寄せる海辺の部落であった。そんな昔の地名をたどってみよう。

坂口（さかぐち）　万福寺やその近くを「坂口」と呼んでいた。小浜の部落から八幡山や磯辺の郷へ向かう道の登り口（坂口）にあったところからつけられた。

九郷（くごう）　昔、吉田神社が神を勧請（かんじょう）した時、この地に一夜を過ごし、里人がこぞって供物を捧げた郷ということで「供郷（くごう）」と呼ばれ、いつしか「九郷」に代わったらしい。

山際（やまぎわ）　昔、今の西小浜に対し山のふもとにある東小浜の部落を「山際」と呼んでいた。このあたりは段丘にあり、南東側は深い森林になっていた。

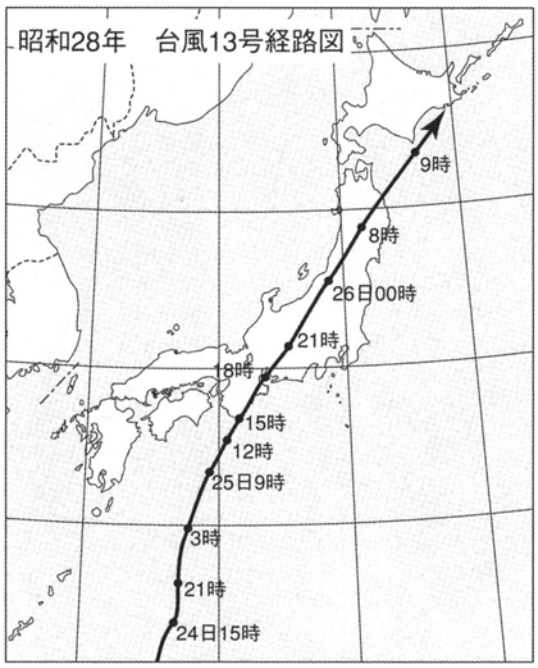
狐穴（きつねあな）　山際である東小浜一帯の段丘のがけに狐が巣穴を作ってたくさん住んでいたそうで、この地名がつけられた。

山下（やました）　小浜街道の下にある東小浜の旧部落のあたりを「山下」と呼んでいた。荒切（あらぎり）、切払（きりばらい）などが山であったころ、向山（むかいやま）などを含めてそれらの山の下にある土地という意味でつけられた。

2　気候と災害

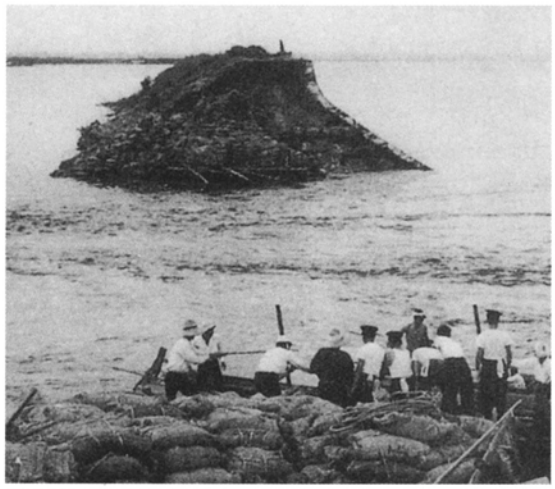
校区は、豊橋市の中でも南部に位置し、温暖で比較的快適な地域である。気象上の特徴としては、冬には「三河のからっ風」と呼ばれる北西の冷たい季節風がみられる。雪が降ることは珍しく、雪が積もることはほとんど無い。

災害の一つは台風による被害である。昭和28年（1953）９月25日の台風13号は、この地方に大きな被害をもたらした台風の一つであった。



「母なる豊川　流れの軌跡」より

17時過ぎ志摩半島に上陸し伊勢湾を通って、18時30分頃知多半島に再上陸した。その後、岡崎付近を通過し奥三河をへて長野県へ抜けるという、豊橋が台風進路の右側にあたる最悪の事態であった。その結果、特に高潮の被害が大きく、神野新田（じんのしんでん）の堤防が決壊したため、沿岸部一帯が海水による浸水を受けた。小浜町でも、数十戸が床下浸水の被害を受けた。この時の話として、二回新田の養鰻場（ようまんじょう）のうなぎや池・川にいたフナなどが八間道路（はちけんどうろ）（南陽通り）や側溝を泳いでいて、手づかみで捕らえることができたと言われている。


神野新田堤防決壊（「母なる豊川　流れの軌跡」より）

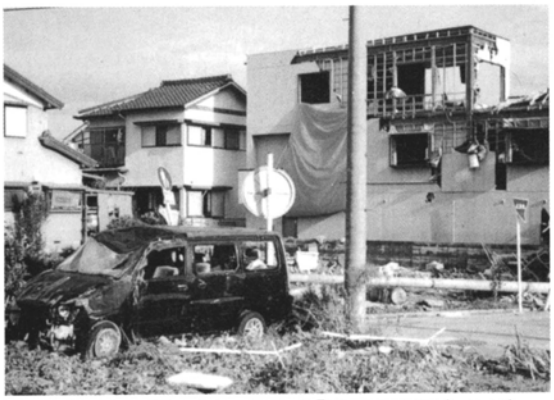
牟呂町（「母なる豊川　流れの軌跡」より）

「母なる豊川　流れの軌跡」より

また、特異な災害として竜巻がある。過去の竜巻のデータでみると、中野校区の南西で発生し北東に抜けていくことが多い。今までのところ、この校区では大きな被害は受けていないが、竜巻街道に近いので今後も心配なことの一つである。

平成11年９月24日の竜巻（「竜巻の記録」より）

平成11年９月24日の竜巻（「竜巻の記録」より）



平成11年９月24日の竜巻（「竜巻の記録」より）

校区付近で発生した竜巻

（「竜巻の記録」より）

◎昭和16年11月28日

〈概要〉午前６時30分頃、豊橋市大崎町に発生、北東に移動して橋良町、柳生町、向山町、前田南町、小畷町、舟原町、西新町、牛川町が被害を受けた。幅70～100m、延長８km

〈被害状況〉死者12名、重傷30名、軽傷147名、全壊44戸、半壊303戸、一部損壊1,000余戸

◎昭和44年12月７日

〈概要〉午後６時２分頃、西橋良町付近に発生し、北北東に移動し、中郷町、関屋町、下地町、大村町、大蚊里町に至る。幅約150m、延長約４kmにわたり市街地を横断

〈被害状況〉死者１名、重傷８名、軽傷69名、全壊10世帯（53人）、半壊64世帯（249人）、一部損壊68世帯（312人）

さらに、多くの学者が東南海地震や東海地震がいつ来てもおかしくない状況であると言っている。「豊橋市地震防災マップ」によれば、東海地震では、市内の震度は震度５弱～６強が予測され、市内の約80％以上が震度６弱以上の揺れになる可能性がある。中野校区でも震度６弱と予測されている。

東海・東南海地震が連動した場合には、市内の震度は震度５強～６強が予測され、市内の約90％以上が震度６弱以上の揺れになる可能性がある。中野校区では震度６強と予測されている。

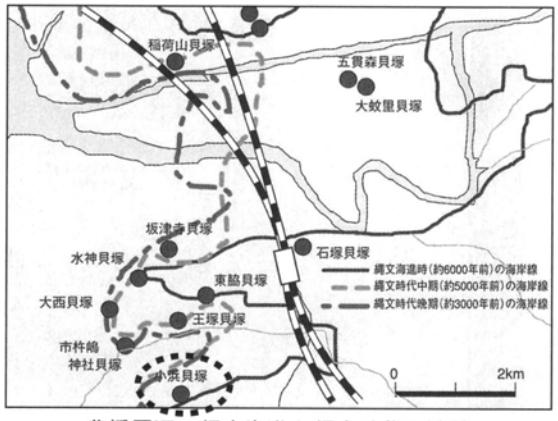
また、沖積地では東海・東南海地震による液状化現象も心配されている。中野校区は液状化危険度が極めて高い地域に指定されている。

その他にも災害の危険性が指摘されている事柄がある。豊橋市の「土砂災害ハザードマップ」によれば、校区の一部地域ではがけ崩れの危険性があるとされている。

第2章　歴史と生活

1　文化のあけぼの「小浜貝塚」

小浜貝塚　小浜神明社境内の北東側に小浜貝塚がある。



豊橋周辺の縄文海進と縄文時代の遺跡
（「とよはしの歴史」より）

地名の「小浜」が示すように、その昔は、小浜町から福岡校区の柱第一公園、正光寺の北側から塩満公園を通って柳生川へ至る標高3ｍあたりが1万年前の海岸線だったのだろう。その入り江の一角にある小浜神明社を中心とした所が、中野校区に最初の人々が生活した所であると言っても過言ではない。

小浜貝塚の標柱

小浜貝塚は、地域の古老の話では「明治20年（1887）代までは、お宮さんを中心に3つの小山ほどの貝殻の山があった。しかし、神野新田の築堤に貝俵として使われたり、道路ごしらえに使われて、今ではその面影はない。

この小山につけられていたなつかしい名前「イチゴ山」を残すため、小浜神明社の北西角の師団都市下水路にかかる橋を、『苺山橋』（昭和59年改修）と名付けた。」ということである。

小浜神明社北西の苺山橋（昭和59年改修）

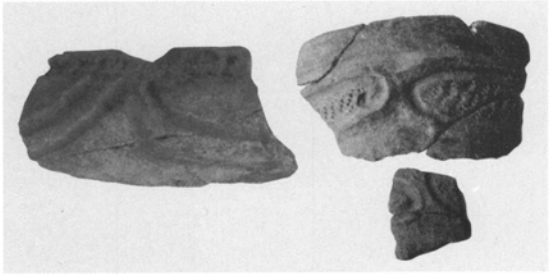
昔の面影を今に残す苺山橋の銘板

小浜貝塚については多くの方が調査研究をしている。

昭和10年（1935）伊藤法一氏は、「豊川下流の上郷と下郷」の中で、「小浜神明社付近の貝塚は、柳生川付近が海であったことをしめす。」と述べている。

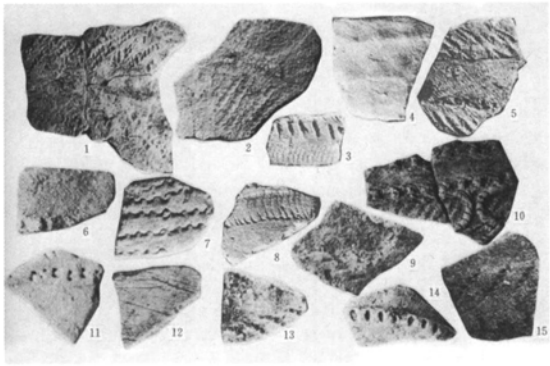
昭和23年（1948）久永春男氏は「三河の貝塚」の中で、小浜貝塚を細かく分け、神明社境内の貝塚を第1号貝塚（中期）、神明社西のものを第2号貝塚（晩期）、神明社北のものを第3号貝塚（前期）、神明社西南を第4号貝塚（後期）と名づけた。

第1号貝塚は、昭和22年（1947）紅村弘氏により、試掘され、その出土品は豊橋市美術博物館に保管されている。



縄文中期土器（豊橋美術博物館蔵）
（「福岡　むかしと今」より）

第2号貝塚からは、縄文後期、晩期の土器片が出土した。



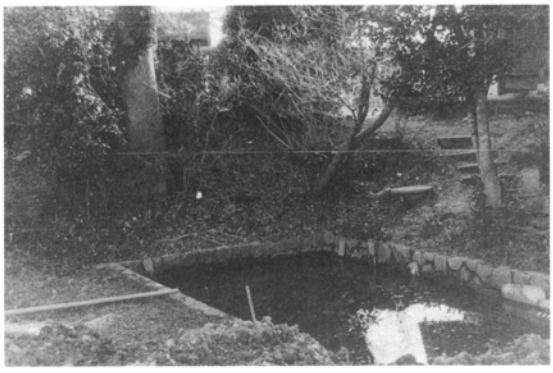
小浜第3号貝塚出土（伊藤惠氏蔵）
（「福岡　むかしと今」より）

第3号貝塚からは、縄文前期後半の土器片が出土し、第4号貝塚からは、縄文後期の土器などが採集されている。

昭和35年（1960）頃、神明社東の階段の取り付け工事に際して、芳賀陽氏が調査した結果、縄文中期後半の標式とされる加曽利E式

類似の土器、同じく中期中頃の北屋敷式土器、同じく前期末の土器片、人骨（横臥屈葬）などが発見された。

小浜貝塚の隣にあった御手洗　小浜神明社北東のすみには、きれいな清水があった。昭和47年（1972）の師団水路改修工事の完成後、水が枯れ始め、その後、埋め立てられ、今は、写真で面影をしのぶだけとなった。



きれいなわき水の出ていた御手洗
（「福岡　むかしと今」より）

この清水は小浜神明社の御手洗として、人々に親しまれてきた。大昔の人々にとっても、この清水は生命の源としてかけがいのないものであった。飲み水としてだけでなく、当時の人々にとっては炊事、水浴、洗濯等を通して共同生活の要ともいうべきところであった。

2　神社と寺院

(1) 小浜神明社

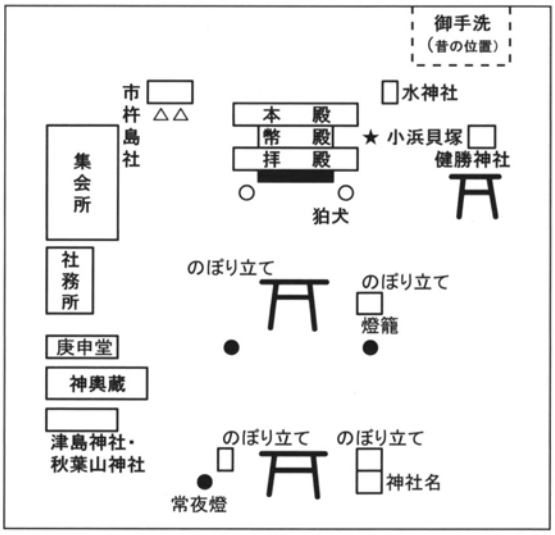
祭神は、天照大御神、須佐之男命、伊雑登美命、応神天皇を祀り、五穀豊穣、町内安全を願う町内の氏神様である。戦災で本殿を焼失。戦後は、境内で村芝居や映画、盆踊り（現在も盛大に行われている）等を行うなど、娯楽の少ない時期、憩いの場として利用された。

本　　殿

昭和33年（1958）に本殿が再建されて以来、祭りも年々盛大になり、神輿、山車も作られ、町内の練り歩き、もち投げ、豊栄の舞（巫女姿で踊る）等も行われるようになった。最近では、境内で手筒花火の打ち上げをするなど町内の人々の求心地としてにぎわっている。

拝　　殿

由緒は、『橋良村舊事蹟草稿』によると建久10年（1199）に、伊勢神宮から勧請したのが神明社の始まりとされている。伊勢神宮から勧請されたのは、橋良御厨という伊勢神宮の神領地がおかれたからである。勧請とは、分神をお迎えすることで、ちょうどお店の暖簾分けのようなことで同草稿に慶安２年（1649）に橋良村から小浜村が分かれ、その時に小浜村の氏神様として神明社に祀ることにしたとある。



小浜神社境内略図

(2) 境内社

小浜神明社の境内には、本殿の他にもいろいろな神が祀ってある。このように一つの社に他の社があることがある。こういう社を境内社という。

秋葉山神社　火之迦具土の神を祭神とし、小浜神明社の境内社として祀られている。いわゆる「火の神様」ということでなじみの深い神社である。静岡県に本山があり多くの人々の信仰を集めている。

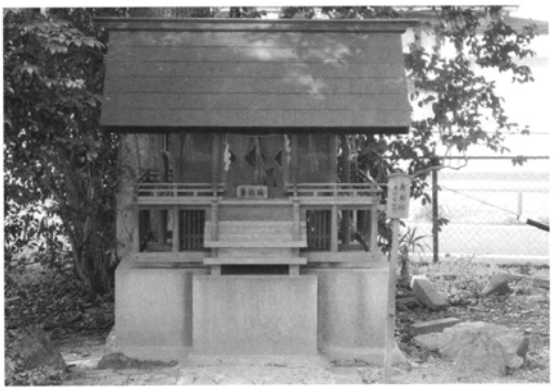
津島神社　建速須佐之男命を祭神としている。津島神社は、人の身に起こる災いや病気を除き、徳と福をもたらす神として崇められている。

秋葉山神社・津島神社とも、昔は木造作りの社であったが、長年風雨にさらされてきて傷みが激しくなったので、石作りの社になった。

（左）津島神社　（右）秋葉山神社

健勝神社　拝殿に向かって右側に小さな社がある。ここには、明治以後小浜町から出征して戦死された方々の霊が祀ってある。平和の礎となられた尊い犠牲の上に今があることを忘れないための社である。

市杵島社　本殿左側後方に古い社がある。これが市杵島社である。この社は寛政8年（1796）に、村人によって勧請され、初めは弁財天といって、大変信仰された。明治の初年になって、名前を市杵島社と改め、市杵島姫命を祭神とあおぎ今日に至っている。家内安全・商売繁盛の守り神とされている。



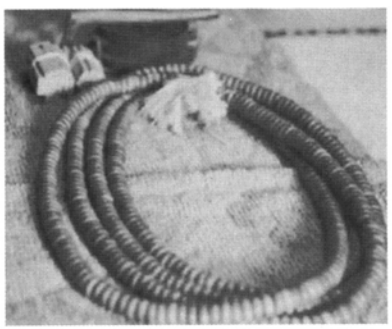
水神社　本殿の北東側に小さな社がある。名前は水神社という。瀬織姫命を祀っている。前記のように、今はその面影すら見あたらないが、昭和47年（1972）頃までは神明社の境内の北東に「御手洗」と呼ばれたきれいな清水がわき出る場所があった。水神社はその守り神である。

(3) 庚申堂

なお、境内には庚申堂もある。

（左）役の行者　（右）庚申塔

昭和50年（1975）代までは、年に一度、小浜町のお年寄りが庚申堂の前に集まり、ご詠歌をあげていた。百万遍といって大きな数珠をぐるぐる回しながら念仏を唱えた。この庚申行事は今では行われていない。しかし、東小浜の有志の方々は、毎月観音堂に集まりこの行事を続けている。



大きな数珠
（「福岡　むかしと今」より）

(4) 万福寺

校区の西のはずれに万福寺という寺がある。臨済宗妙心寺派の寺である。なお現在の本殿は昭和４年（1929）に再建されたものである。

万福寺本堂

寛治５年（1091）の創立で、開基は要関紹印和尚、開山は雪江和尚で、昔は鎌倉建長寺の末寺であったが、ある時期に妙心寺派に改めた。

長い間には盛衰を繰り返してきたが、盛んにした和尚の名をあげると延宝年間（1673～1680）の乾山和尚、天保12年（1841）の真城和尚である。なお、天文22年（1553）に、一時寺領を今川義元配下の吉田城主に没収されたが、慶長６年（1601）に酒井忠次より、没収されていた寺領をもどされた。また、忠次は、万福寺を保護したらしく、寺内での禁制の条目をだしている。

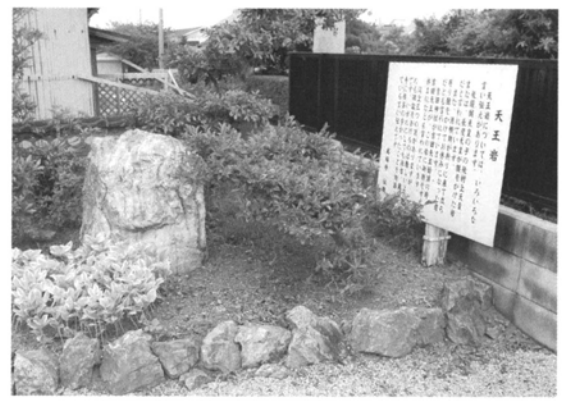
また、万福寺の山門は火災に遭うこともなく昔のままの姿であり、とても貴重なものである。

山門は昔のままであるが、周りを改修した

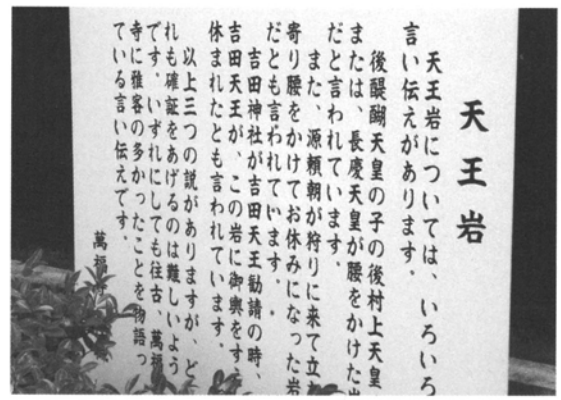
天王岩のいわれ　諸説あるがどれも確証はなく、「言い伝え」として残っている。

（「福岡　むかしと今」より）

この岩は、昔、本堂前の庭にあったが、いわれを知らない者がただの庭石と思って無礼なことをするので、現在地に移してしめ縄をかけて大切に扱うようにした。長い間、竹やぶの中にあったが平成10年（1998）代になり境内が整備され、下の写真のようになった。



万福寺の北西角の境内にある天王岩



天王岩の説明書き

この岩は「天王岩」と呼ばれるように、関屋町の吉田神社（祇園祭で有名な神社）と深い因縁がある。吉田神社が神（牛頭天王様）を初めて勧請（分神を迎えること）する時小浜の小座口まで神が船で来て、万福寺の庭にあったこの岩にお輿をすえて休み、一晩お祝いした。里人は神を迎えて大喜びし、お輿の前に集まり供物を捧げてお参りした。次の日、里人はお輿の供をして吉田まで行った。これより毎年、吉田神社の祭礼には、小浜の里人がお輿の供ぞろいの道具を準備し、獅子をかぶり笛や太鼓を吹き鳴らしながらお輿の供をして吉田まで行くようになった。しかし、その行列もずっと昔に行われなくなった。

【橋良村舊事蹟草稿】

(5) 観音様

西小浜の観音様　独立した観音堂はないが万福寺本堂内には、背丈30cmほどの観音像が祀られている。

万福寺本堂内に安置されている観音像

東小浜の観音様　この観音様にまつわる話は南北朝時代（1336～1392）にあったと思われる寺が「橋良村舊事蹟草稿」に書かれている。観音寺と法雲寺である。

同草稿に書かれている話を要約すると、「南北朝時代になってすぐの延元3年（1338）9月の暴風雨の中、観音寺のある地に1人の王子が流れ着いたが、看病の甲斐もなく亡くなった。和尚は悲しんで境内に墓を作ったが、この寺の和尚は、南朝方に味方していたため、北朝方によって寺はつぶされてしまった。

その後、この地に住む芳賀清六、芳賀清兵衛が荒れ果てた寺を修繕したが、時とともにまた荒れた寺になった。ある時、駿河の国の僧が立ち寄り、荒れ寺の観音菩薩をみて哀れみ、地元の許しを得て駿河の国に持って行った。また寺には、「かたみ」にと石の観音像を安置した。その後、清兵衛は小浜の方に移り住みその地で観音像を作った。お堂は元のものを持ってきて間に合わせた。

芳賀清兵衛が造ったとされる小浜の観音像
（「福岡　むかしと今」より）

その後、数年がたち駿河の国の僧の夢枕に観音菩薩が立ち、『元に帰りたい』と言われ、再び橋良で観音像を祀ることになった。しかし、今はお堂もないので清兵衛の持って来たお堂（小浜）でいっしょに祀ったとのことである。

この話でわかるように観音像は3つあった。現在、それらの観音像は、1つが「橋良の観音様」と呼ばれている（正光寺の三十三観音堂の中にある。）のが石作りの観音像、2つめは小浜で作った観音像である。東小浜の大池の西の観音堂の中にあるのがそうらしいといわれている。残念ながら、最初の観音像…その行方は不明である。

東小浜町の師団都市下水路のほとりに建てられた観音堂、手前の小屋は庚申堂

3　第15師団と共に

(1) 師団誕生と変遷

日露戦争で軍備が拡張され、明治41年(1908) 11月、高師原・天伯原が近くにある高師村一帯に第15師団、翌年７月には騎兵第４旅団ができた。今の中野小学校から二六町にかけては、騎兵第25聯隊・騎兵第26聯隊の兵営が並んだ。

いままでの山野は師団・旅団が設置されたことにより道路網、下水道が整備されて一変し、周りは兵営前町となってにぎわい『官宅』が建った。こうして「軍都豊橋」が形成され、軍隊と歴史を共にすることになった。

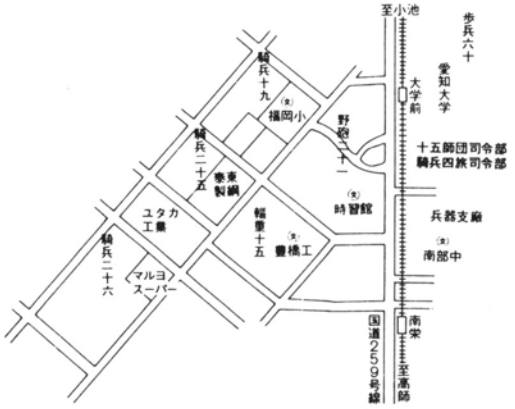
しかし、師団は創設以来わずか17年で、大正14年（1925）４月、軍縮のためその一部を残して廃止・解散してしまった。加えて、昭和７年（1932）９月、旅団も満州に派遣されこの地を去った。広大な兵営は他に転用され、街は一時、かつての面影を失った。

現愛知大学内にある旧司令部の建物

偕行社の建物（愛知大学本部）
（上下、「福岡　むかしと今」より）

今は面影もなく、建物も撤去された国立豊橋病院

明治41年（1908）創設された衛戍（えいじゅ）病院（陸軍病院）は、昭和20年（1945）国立豊橋病院の名称となった。その後平成16年（2004）には、国立豊橋東病院（現、国立病院機構豊橋医療センター）に統合され廃院となった。



『軍都』と呼ばれるもとになったまっすぐな道路
（改訂版「豊橋の史跡と文化財」より）

師団の廃止と旅団の転出で一番影響を受けたのは地域住民だった。特に軍隊専門の土産物屋、料理屋、旅館などは影響が大きく大変だった。さらにもう一つ大きな問題は、農家に与える影響で、兵隊肥、馬糞など、農家にとって肥料は貴重なものであったからである。

それほど、師団と地域住民の生活は密接な関係になっていた。師団が廃止された跡は学校や軍関係の施設として利用された。また、第二次大戦後は学校施設、官公庁、工場、会社の用地として利用され、文教地区として発展し、現在に至っている。

軍事施設　その後の変遷

明治　大正	昭和初期	終戦	現在
第15師団司令部…	第4旅団司令部…		愛知大学本部
歩兵第60聯隊…	豊橋陸軍教導学校（歩兵科）・豊橋陸軍予備士官学校…		愛知大学
騎兵第19聯隊…	福岡尋常高等小学校…	福岡国民学校…	福岡小学校
野砲兵第21聯隊…	高射砲第一聯隊・豊橋陸軍教導学校（歩兵科）…豊橋陸軍予備士官学校		時習館高校
輜重兵第15大隊…	陸軍倉庫…		豊橋聾学校・豊橋工業高校
豊橋憲兵隊…			豊橋南部窓口センター・南部交番
兵器廠…			住宅
偕行社…	陸軍予備士官学校生徒集会所…		愛知大学本部
衛戍病院…	陸軍病院…		（国立豊橋病院）
衛戍監獄…			住宅
騎兵第25聯隊…	陸軍倉庫…		（豊橋盲学校）（豊橋工業高校）（泰東製綱）・中野小学校　ユタカ自動車学校　マックスバリュ　ホリデイスポーツクラブ
騎兵第26聯隊…	補充馬廠…		（山口毛織）・ヤマナカ、県営住宅、作楽荘　豊橋河川事務所　豊橋南郵便局

(2) 校区に残る師団の面影

師団都市下水路　第15師団が創設され、そこで使用された水が師団の周りの排水路に流された。4つの下水道を通って柱、小浜両町内を通り牟呂へと流された。これが師団都市下水路（通称、師団排水路）である。この排水は汚れた水であったが柱、小浜両町内の田畑のかんがい用水として利用されていた。

現在は雨水の排水路としての役割が大きい

下水路の内部（「福岡　むかしと今」より）

現在では時習館高、豊橋工業高、福岡小、中野小等の道路側溝下水路となっている。溝の中は当時の面影を残しているが、現在は蓋がされ中を見ることはできない。

陸軍倉庫（ユタカ自動車整備工場）

哨舎（門番の兵が立っていたところ）
王ヶ崎東公園にて
（「福岡 むかしと今」より）

騎兵第26聯隊の正門及び慰霊碑
（王ヶ崎東公園にて）

師団司令部衛門（愛大にて）
（「福岡　むかしと今」より）

騎兵第25聯隊跡地記念碑
（ユタカ自動車学校にて）

平成17年「騎二六会」解散

明治42年（1909）に中野町で編成された騎兵第26聯隊は、終戦まで残っていた騎馬旅団としては日本唯一のものであった。この聯隊の生還者でつくる「騎二六会」は、軍旗祭にあたる９月23日に総会を兼ね慰霊祭を王ヶ崎東公園（通称　二六公園）で毎年行ってきた。昭和46年（1971）に「騎二六会」が結成されてから、中国で亡くなった421柱の戦死者と軍馬960余頭、物故会員の冥福を祈り慰霊祭が続けられてきた。平成12年（2000）４月27日には「騎兵第26聯隊会全国大会」も二六公園で開催された。しかし、近年では会員の物故と高齢化に伴い参加者が激減してきたため、平成17年（2005）が最後の慰霊祭となった。最後の会には40名ほどの出席者があり、式後記念撮影をして解散し、30年以上続いた歴史の幕を閉じることとなった。

4　戦後の復興

(1) 戦後の南部地区

戦後、師団の跡地には学校施設（愛知大、栄小、福岡保育園、南部中、時習館高、豊橋盲学校、豊橋工業高、豊橋聾学校、福岡小、中野小）、繊維関係（山口毛織、泰東製綱）、ユタカ鋳造の工場（後のユタカ総業）や市営住宅、県営住宅、マンション等が進出して、あたりは一変した。また、高師原、天伯原も学校（天伯小、幸小、高師台中、本郷中）、会社、住宅、マンション等が進出して、文教地域、商業地域、住宅地域として発展してきた。

旧騎兵第25聯隊跡地の商業地域と住宅街

(2) 校区の大商業地域

中野校区内も、小浜地区では太陽航空工業の跡地の一部に豊橋スポーツセンターが進出し、その後の商業地域への足がかりとなった。イトーヨーカドー（7＆i HOLDINGS）、ホリデイ・インホテル豊橋（後のホテル日航豊橋）等の企業も進出した。これに伴い、南陽通りは繁華街に一変した。また草間地区も愛知県勤労福祉会館（後のアイプラザ豊橋）、マルヨ（後のヤマナカフランテ館）、山口毛織（後の豊橋南郵便局、豊橋河川事務所、住宅地）、ユタカミニゴルフガーデン（後のホリデイスポーツクラブ）、泰東製綱（後のマックスバリュ）をはじめとして、商業地域、マンション、アパート等の住宅地域へと、めざましい発展を遂げた。

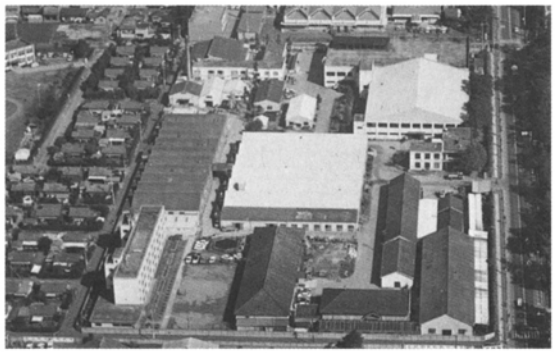
南陽通りの両側を埋める商店街（上、下）

特に、1950年代から80年代にかけてはバブル期と重なり、大型店舗の進出に伴い、レジャー施設（ゴルフ、ボウリング、プール、スケート）やホテル（ホリデイ・インホテル豊橋）等もできて豊橋でも有数の繁華街となっている。1990年代になり、不況の波に飲み込まれるように繊維、漁網、レジャー関係（ゴルフ、プール）が衰退し、変わって食品関係、健康ブームによる施設が作られる等大きく変貌した。また人口も他校区からの流入により増加したが、核家族のためか小中学生等の少子化現象の波は全市的な傾向で、中野校区も例外ではなかった。また、校区内に外国人が多く居住するようになった。

(3) 校区に進出してきた企業・公共施設

泰東製綱豊橋工場　泰東製綱は、昭和22年（1947）ロープ販売を目的に泰東綱業として東京に設立された。昭和24年（1949）製造を行う泰東製綱を設立し、豊橋市東新町に豊橋工場を建設した。両社は昭和26年（1951）合併した。昭和31年（1956）事業の拡張を見込

み、広い敷地を求めて豊橋市中野町の旧騎兵第25聯隊の敷地跡（3.3万㎡）に進出し、旧工場を閉鎖した。



上空から見た泰東製綱豊橋工場

平成６年（1994）豊橋事業所を閉鎖。平成13年（2001）豊橋市西幸町に豊橋生産管理センターを置き、豊橋工場は更地になった。

中野校区市民館　中野小学校開校と同時に、中野小学校体育館の一階部分に開設され、集いの場として校区の人々に親しまれている。

マックスバリュ　平成16年（2004）７月には、泰東製綱跡地に大型スーパーが進出してきた。24時間営業という商業施設である。

これで校区内には３つの大型店（イトーヨーカドー、ヤマナカフランテ館、マックスバリュ）が競争する形になった。

ユタカグループ　ユタカ鋳造株式会社が昭和24年（1949）に野田町から移転してきて操業していたが、昭和36年（1961）にユタカ自動車教習所を開設、レストラン、ゴルフ練習場、ミニゴルフコース等、事業を拡大したが、その後、自動車教習所を自動車学校に格上げ、ゴルフ関係事業からは撤退し、ガソリンスタンド、自動車整備・販売等の事業を加え、現在に至っている。

ホリデイスポーツクラブ　健康ブームにのり、ミニゴルフコースの跡地に平成15年（2003）に進出してきた。

山口毛織株式会社　昭和28年（1953）に菰口町から旧軍用地（騎兵第26聯隊跡地）に移転してきたが、60年代に入ると閉社となり、現在その跡地はスーパーマーケット、豊橋南郵便局、豊橋河川事務所、住宅などになっている。

ヤマナカ　フランテ館　昭和30年（1955）代の前半に旧騎兵第26聯隊跡地の一角にスーパー「マルヨ」として進出してきた。平成15年（2003）には、新装一新してヤマナカフランテ館として再出発した。

作楽荘（さくらそう）　社会福祉法人一誠福祉会が昭和63年（1988）特別養護老人ホーム作楽荘（さくらそう）を開設した。その後、同敷地内にケアハウス、在宅介護支援センターを開設・増床されてきている。

豊橋南郵便局　平成２年（1990）豊橋郵便局から分離独立し、地域区分局として44地域54局の郵便物輸送の拠点局として重要な役割を果たしている。

豊橋河川事務所　昭和57年（1982）、建設省中部地方建設局豊橋工事事務所が移転してきた。国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所と改称し現在に至る。

福井酒造株式会社　昭和29年（1954）に渥美郡福江町（現、田原市）から中浜町に移転してきた。地域の酒造会社として発展してきた。その後、機械を小型化するなど近代化を図り、敷地を３分の１程度にした。機械は小型化されても生産性は向上しており、現在も個性的な酒を醸造し続けている。

近代化された工場内とタンク群

結婚式場（マリエール）　平成12年（2000）には結婚式場（マリエール）が福井酒造株式会社の工場余剰地にできた。

南陽地区市民館、草間地区体育館　昭和59年（1984）に体育館、62年（1987）に地区市民館が隣接して開館した。地域の人々の集いの場として活用されている。

豊橋スポーツセンター、イトーヨーカドー　昭和39年（1964）太陽航空工業の跡地に一大レジャー施設（ボウリング、ゴルフ練習場、屋外・屋内プール、アイススケート場）ができた。そのために、人の流れが変わり、南陽通り沿線はいろいろな店が進出してきた。

グリーンボウルとホリデイ・インホテル豊橋、イトーヨーカドー（昭和50年代）（「福岡　むかしと今」より）

また、昭和53年（1978）にはスポーツセンターの一部に大型スーパー（イトーヨーカドー）が進出し、その数年後にはホテル（ホリデイ・インホテル豊橋）も進出してきて、豊橋有数の繁華街となった。その後、ゴルフ

ホテル日航豊橋とイトーヨーカドー等の商業施設

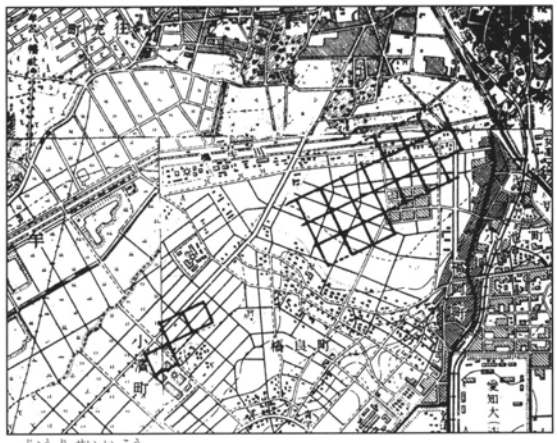
練習場、プール、アイススケート場が撤退し、代わってゲームセンター（セガアリーナ豊橋）、映画館（ＡＭＣホリデイ・スクエア）が進出、ホテルもホテル日航豊橋に代わった。映画館もユナイテッド・シネマ豊橋18に代わった。豊橋の副都心として発展している。

大型スーパー（イトーヨーカドー）

エフエム豊橋　平成５年（1993）、全国で３番目に開局したコミュニティ放送局で、今や東三河には無くてはならないメディアとなっている。

5　農業の発展

中野校区は、沖積平野と洪積台地から成り立っている。沖積平野にある柱三番町の橋良遺跡では、弥生時代の稲作農業を行う一大集落が成立していた。さらに奈良時代には、藤沢町一帯に条里制の水田が広がり、平安時代末から鎌倉時代には、これらの水田が伊勢神宮に寄進され、橋良御厨の荘園が成立し、橋良村として発展してきた。

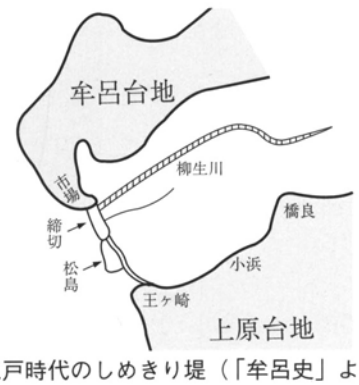


条里制遺構の分布（「三河遠江の史的研究」より）

（1）新田開発

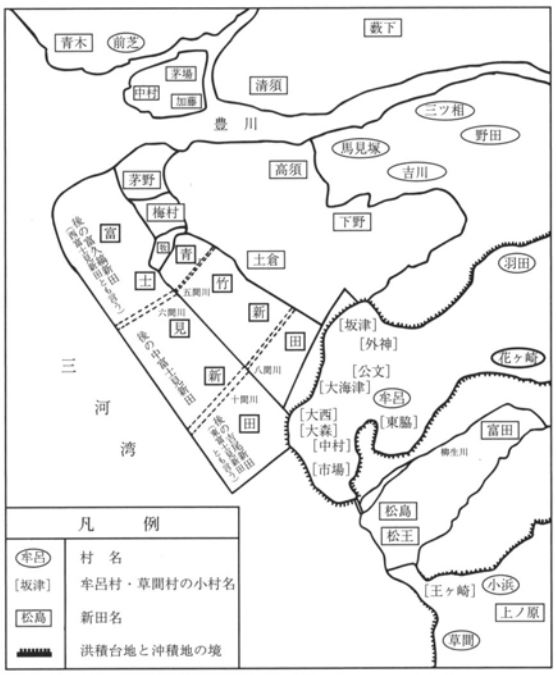
農業の発展に大きく関わってきたことの一つに、新田の開発があげられる。

牟呂台地と上原台地との間の柳生川流域の沖積低地は、江戸時代に次第に田畑や塩田が開発されていった。しかし海水浸入による塩害、大雨による氾濫に悩まされていた。牟呂の市場から松島部落の間に堤防が築かれ、村人は「しめきり」と呼んでいた。当時は市場から松島を経て王ヶ崎に至る間が海岸線であったが、しばしば決壊した。



江戸時代のしめきり堤（「牟呂史」より）

柳生川河口の新田開発として、松島新田は寛文７年(1667)、松王新田は寛政２年(1790)、上ノ原新田は延宝７年（1679）以前、富田新田は寛文の頃に開発された。次第に田畑が増やされ、収穫高も高まっていった。



柳生川河口の新田（「牟呂史」より）

（2）江戸時代の農民の暮らし

中世の頃ははっきりしないが、江戸時代の小浜村は400石～500石の石高の郷村で、末期には60戸、約300人の人たちが農耕をしていた。また、南東の上ノ原台地も17世紀後半頃から草間村や牟呂村の人たちによって開墾・耕作が進んだ。元禄の頃には117石の石高で、この新田の年貢は25%位であった。小浜村・草間村の人たちは年貢の他に毎年二川宿への助郷を負担しなくてはならなかった。天明５年（1785）２月12日の小浜村の助郷は人足22人、馬５疋を差し出した記録がある。

(3) 明治・大正時代の農業

明治の末頃、小浜には数十戸の農家があり、地主は小浜に10軒位あった。

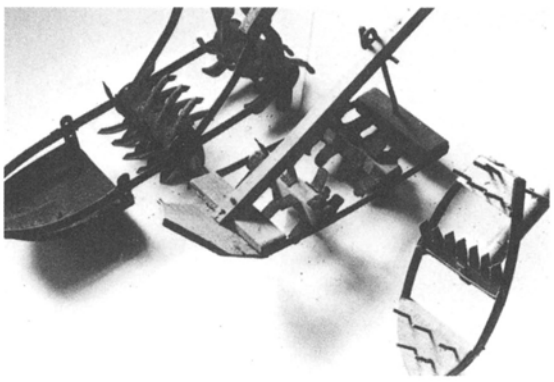
米、大麦、小麦、イモ、キビ、アワ、豆などを栽培していたが、中心は、米作りであった。

小浜の田は、水不足で困ることはあまりなかった。ため池や師団排水路があり、よく清水（わき水）がわき出たからである。

昔から昭和初期にかけての米作り

籾を水に浸し、５月の初めに苗代にまいた。田打ち、小テ切り、畝がえし、代かきと４度田起こしをした。６月の終わり頃田植えをする。９月頃までに田の草を３回取る。10月下旬頃稲を刈り、はざにかけて干す。乾くとこばし（千歯こき）で１株位ずつこいて籾にした。その籾を唐臼にかけて玄米にした。平均して、１反で５～８俵取れた。いずれも手作業で、田んぼの仕事は大変なものであった。

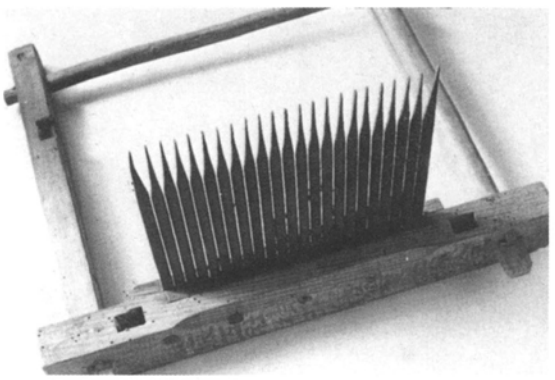
古い農具（「豊橋市南部農協20年史」より）



【田の草取機】 向かって右が古いもので、左が除草剤が普及する前まで、使われたコロである。夏の水田作業の一番の仕事は、稲の株間をこの草取コロを押して草を取ることであった。

【すき】 牛に引かせて、田をおこす道具。牛は手綱一本で前後左右に人の言うことを聞いた。

しっ＝前進。ぼう（または、どう）＝停止。ちょう＝左。右は綱を引く。



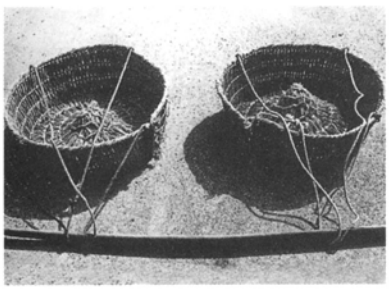
【せんばこき（千歯扱）】 明治から昭和にかけて、脱穀に使われた。一軒に２～３台あって、櫛歯で稲の穂をすっこいて、籾を落とした。

【足踏み脱穀機】 稲の穂から、籾をとる道具。昭和の初めから足踏み脱穀機になった。

この写真では、稲を「はざかけ」して乾燥させた後、脱穀に移る様子が分かる。

【とうみ（唐箕）】

風力を使って、もみや麦類、雑穀を重い実、しいな（軽い実）、ゴミに区分けする仕事をした。

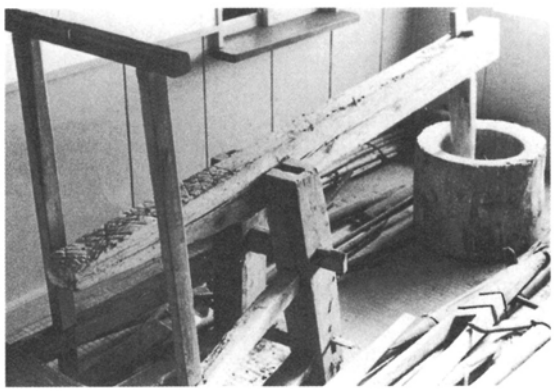


【びく】

運搬用の道具。わらで作ってあり、木の棒（天秤棒）でになった。一輪車が出るまで長い間使われた。

【からうす（唐臼）】

天日で乾かしたもみを夜なべ仕事で、からうすですって玄米にする。赤土で竹の箘を埋めてある円筒が上下に重なり、上の円筒の中にもみを入れて長い回転棒を使って、ゴロゴロと回す。



【ふみうす】 右のうすの中に玄米を入れ、左の木のわくにつかまって、足で杵を踏み下ろして精米した。

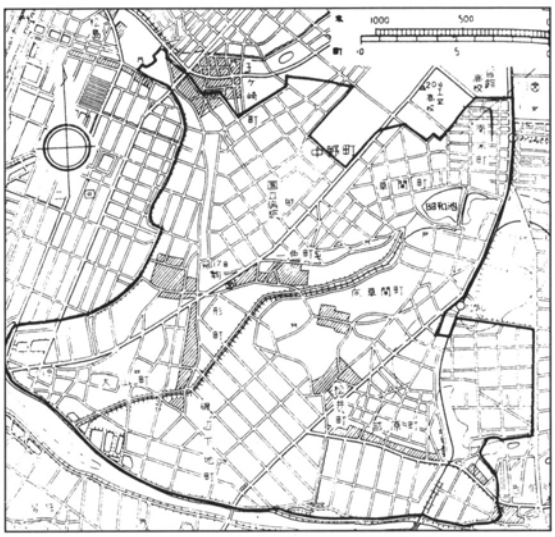
【斗ます】

1斗は10升、1俵は4斗である。升に余分に入れてトボ（斗棒）という丸い木で縁に沿って余分を落として計る。

（4）耕地整理組合・土地区画整理組合

現在の中野校区の農地は洪積台地の畑と沖積平野の田に大別され、工場敷地、住宅地、商業地、道路用地と区分けされ発展してきた。

磯辺耕地整理組合は、昭和4年（1922）に組合が設立され、昭和7年（1932）に工事を完了している。中野町や王ヶ崎町の一部も、駒形町・大山町・向草間町・松井町・芦原町

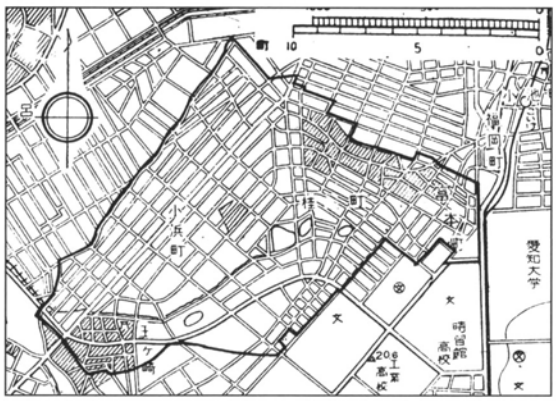


磯辺耕地整理確定図（「豊橋整地事業誌」より）

と一緒に耕地整理を終え、現在の上原台地の畑も出来たのである。用水確保のため雨溜池であった杓子池を拡張したのが現在の昭和池である。昭和43年（1968）に豊川用水が通水

されたので、昭和池の必要性が薄れた。そこで池の大部分を埋め立て市営住宅や勤労福祉会館（平成14年に「アイプラザ豊橋」と改称）用地に転用された。

また、昭和８年（1933）南部土地区画整理組合が設立され、橋良町と富本町の一部の地区を扱うことになったが、翌昭和９年に小浜



南部土地区画整理確定図（「豊橋整地事業誌」より）

町を含む地域に変更され、その地積は134.3町歩と多くなった宅地は整理前の３倍にも増え、工場敷地も設定され、その代わり田・畑は整理前の７～８割に押さえられ、昭和26年（1951）に工事を完了した。土地こそ転用されたが道路用の敷地も確保され、都市計画路線大崎線の開通が昭和14年（1939）に行われ、戦後に至り極めて緩慢ではあるが住宅・商店街への動きをみせた。

（5）戦後の農業

昭和20年（1945）に戦争は終わったが、国民生活は大変苦しく、人々は生活の立て直しに懸命に努力した。また、食料も大変不足していた。「百姓をしていても食べるものが足りなかった。」といわれたほどであった。農地改革が行われ、多くの自作農が生まれたが、この頃、田では米、畑ではサツマイモ、麦、ジャガイモが多く作られた。主食の代わりになるものの栽培が推奨されていた。

ただ、米作りは手作業が多く、昔の米作りと大差なく、昭和10年（1935）頃には田植えを５月初めにする早植えがはじまった。また牛耕も始まり、多くの家で牛を飼うようになった。

戦争中の昭和17年（1942）に公布された食糧管理法が、食料不足のため戦後も続けて施行されていた。そのために農家の生活には束縛が多く経済的にも困難な状態が続いていた。

生活の混乱・統制は昭和23（1948）年頃がピークで、その後、統制は徐々に撤廃され、昭和30年（1955）頃には生活全体が落ち着きを取り戻した。

このころ中野校区では（現、王ヶ崎町上原地区を中心に）麦、サツマイモ、ジャガイモ、白菜、キャベツなどを栽培していた。やがて輸送力の向上とともにスイカ、白菜が主流になり名古屋・大阪方面へ大量に出荷され、白菜の一大産地となった。1950年代の終わり頃から60年代にかけては、野菜の品種改良も進み、ハウス栽培が多くなり、ニンジン、メロン、スイートコーン、レタス、トマト、等へと移り変わってきた。一方、米作りは小浜地区（現イトーヨーカドーを中心に）で栽培されていたが、農村地帯を一変させたのはスポーツセンターの進出（昭和39年）であった。道路が舗装され急速に商業化への変化が表れ

中浜池の周りや田を埋め立てて建つ住宅
（ホテル日航豊橋の屋上より）

てきた。それにともない住宅も建ち始めた。商業化、都市化と反比例するように米作りは衰退していった。この辺りは、今では市内でも有数の商業地域へと変貌している。

(6) 校区に残る農業地帯

中野校区の西部から磯辺校区の東南部にかけての上原台地では、現在も広々とした畑が広がっている。これは市街化調整区域であり、農業振興地域に指定されているためである。

上原台地および草間方面地域は、古くから野菜栽培の盛んな地域であった。大正末期頃からは桑畑が白菜畑に転換され、昭和12年(1937)・13年(1938)頃には、乾燥白菜を戦地に送るなど拡大がはかられた。その後、前述のように第二次世界大戦のため食糧不足となり、食糧作物の「甘藷(かんしょ)、麦」に転換を余儀なくされたが、戦後昭和22年(1947)頃から、再び白菜の生産が始まり、昭和30年代に入ると、秋冬期は畑一面白菜一色となった。しかし、昭和40年代に入ると草間方面地域の農地には住宅が建ちはじめ、農業をとりまく環境は大きく変貌してきた。

昭和30年代の上原台地の白菜畑
(「豊橋市南部農協20年史」より)

上原台地を中心とした地域では、現在も白菜を始め多くの野菜が栽培されている。中でも特記すべきは白菜の出荷時期である。この地域では晩期出荷の特色をもち、2月・3月に出荷する白菜の特産地として有名である。

他にも、トウモロコシ、キャベツ、露地メロン、ウリ、カボチャ、トマト、ブロッコリー、レタス、ナス、タマネギ、ジャガイモ、スイカ、ニンジン、エダマメ、インゲン、シソ、サツマイモ、トウガン、エンドウ、ソラマメなどが栽培されている。

現在の上原台地、キャベツ畑・白菜畑

しかしながら、昭和60年(1985)の資料で見ても世帯数に対する農家戸数の割合は福岡農協管内で3.5%、磯辺農協管内では5.3%と大変少なくなってきている。また、農家のうちで専業農家の割合は、福岡で21%、磯辺で36%であり、残りは兼業農家である。

平成12年(2000)の資料では、次のように専業農家はさらに減少している。福岡の農家戸数143戸の内、専業農家が43戸で、専業農家の割合は30%である。磯辺でも、専業農家の戸数は25戸で、全農家戸数164戸の内の15%である。両地域とも専業農家は一層減少しているのであるが、福岡の専業農家の割合が以前より上がっているのは、農家戸数全体の数が大きく減少したことによる。農家・農業従事者の減少に加え、高齢化社会を迎え、農業も大きな転機を迎えている。

6　校区の主な活動

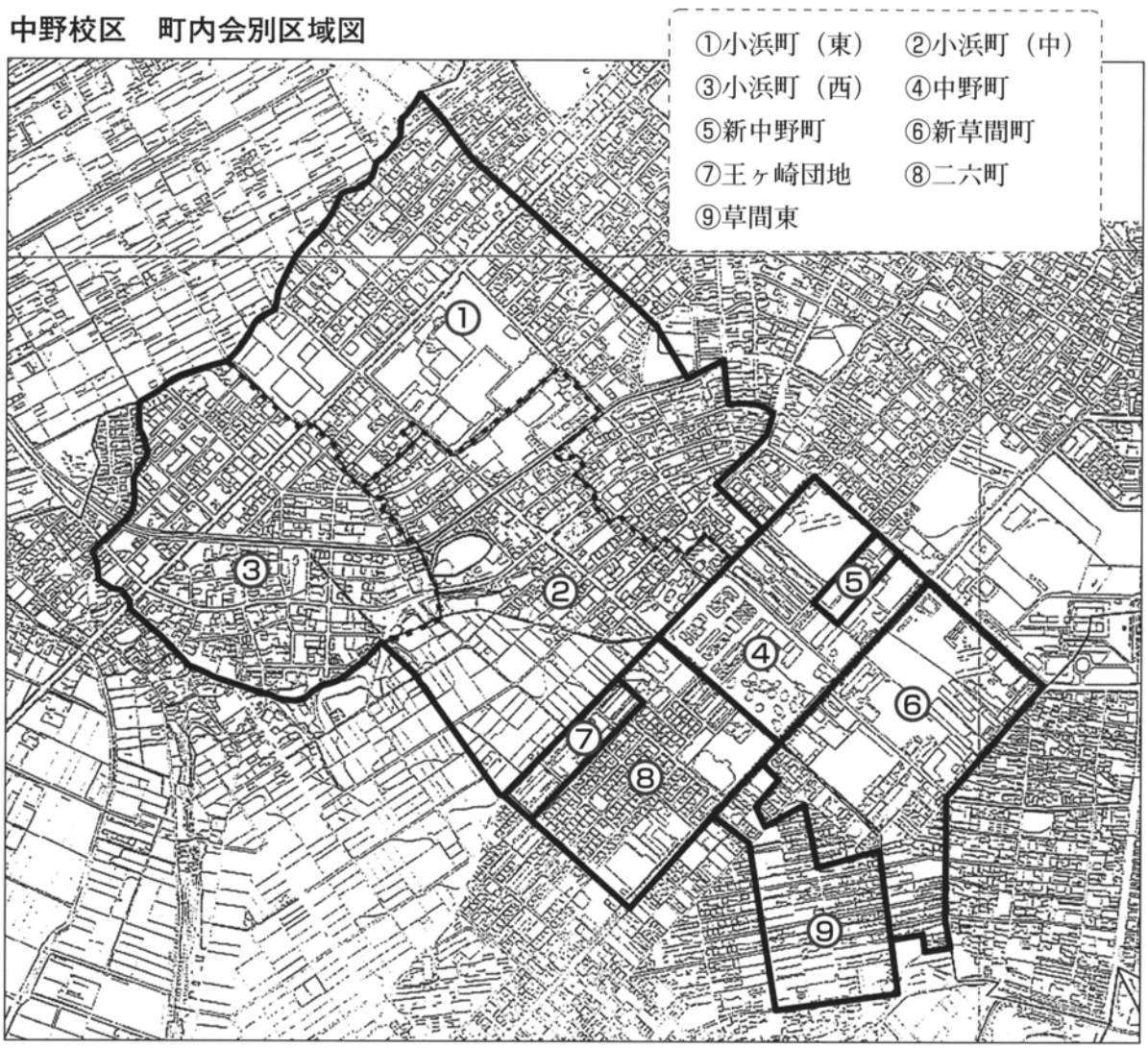
（1）行政上の各町の歴史的背景

平成17年度（2005）現在では、７つの町内会（小浜町、新中野町、中野町、新草間町、草間東、二六町、王ヶ崎団地）で中野校区が構成されている。昭和60年（1985）に中野校区が発足した時には、福岡校区から小浜町と中野町が、磯辺校区から二六町と王ヶ崎団地、草間三区（後の草間東）が、栄校区から新草間町が新設の中野校区に入った。また、校区発足と共に、中野町から分かれて中野草間町が誕生した。その後、中野草間町は平成16年度に新草間町に吸収合併され、新草間町の範囲が広くなった。また、平成17年度には泰東製綱跡地にマンションが建設されるのに伴い、新中野町が発足した。

新草間町は、栄校区の一部が分かれて出来たため、平成13年（2001）までは南栄町の進雄神社（すさのおじんじゃ）とのお付き合いをしていたが現在はしていない。

草間東は、現在も草間町との付き合いは大変深く、草間町にある春日神社でのお祭りの他にも、合同敬老会や合同防災講習会、春日神社や草間公民館の清掃、春日青年団の活動などを草間町と一緒に行っている。

中野校区　町内会別区域図



(2) 中野校区体育祭

校区体育祭は、昭和61年（1986）から開催されて以来年々盛大になり、平成17年度には早や20回を数える。その間に町内の合併があり、校区独自の伝統的な種目もあるが、全市大会につながる種目を中心に、校区民が一日、親睦と体力増進を目標に楽しむ大きな行事として成長している。トラックの周りは各町内のテントで一杯になり、選手、応援団の歓声で一日中にぎわう。

主な競技種目は、玉入れ、ムカデ競走、綱引き、ボール送り、町別対抗リレー、オープン種目等である。

開会式、町内の名誉をかけて宣誓

綱引き、応援にも力が入る

閉会式、けがもなく無事終了

(3) 各町内のお祭り、盆踊り大会

小浜町には、中野校区でただ一つの神社「小浜神明社」がある。お祭りには、山車と共に大人神輿と子ども神輿が町内を練り歩く他に、神事・巫女舞奉納(豊栄の舞)、手筒花火の奉納、もち投げ等が行われている。町内あげてのにぎやかな行事である。

また、子どもたちには花火やジュースが配られ、くじ引きなどもあり喜ばれている。

町内を練り歩く神輿巡行も、今では神輿の担ぎ手が多く２日間を何回にも分けて行われている。町内の若い衆は祭りの中で、一度は神輿を担がなくては…、そんな気持ちで祭りに参加している。

氏子・巫女、神主と共に入場

もち投げで祭りの最後を締めくくる

女性の手による大人神輿も

中でも圧巻なのは境内で勇壮に打ち上げられる手筒花火の奉納であり、年々盛んになっている。

境内で打ち上げられる手筒花火の競演

神社を持たない中野町、新草間町、王ヶ崎団地などでは、公園や集会所を利用して、お祭りの行事を行っている。子供の神輿が出たり、花火やお菓子等がふるまわれるなどしている。二六町では、数年前から特別な行事は持っていない。

草間東は草間町と磯辺校区にある春日神社で、祭りの行事を一緒に行っている。

「盆踊り」については、小浜町は小浜神明社で、二六町はヤマナカの駐車場を借りて実施をしてきた。小浜町では下の写真のように毎年盛大に行われているが、二六町の方では、平成12年度まで行われていたが、13年度からは実施されていない。

小浜町の盆踊り

小浜町の盆踊り

(4) 成人式

校区成人式は、中野校区誕生とともに毎年中野小学校体育館を会場に、厳粛かつ明るい雰囲気の中で行われている。成人式を思い出深いものにするため、毎年工夫を凝らして儀式が行われている。他の校区と同じように、新成人が式を楽しむ傾向や服装が年々派手になるなど時の流れも感じる。

毎年、厳粛な式典が行われている

緊張の中にも喜びに溢れる新成人

式後の茶話会、友と語らう

(5) 社会を明るくする運動

総代会、各種団体、小中学校、ＰＴＡの皆さんによる、年数回のパトロールや街宣活動は、地域の青少年に大きな影響を与えている。特に、小学校では、子供たちのトランペット鼓隊を参加させるなど校区の交通安全運動、防犯活動に協力している。

保護司、更生保護女性会、青少年健全育成会、社会教育委員会の共催で、講演会を実施し啓発活動も行っている。

講演会でのあいさつ

街宣活動をする皆さん

街宣活動に参加している子どもたち

(6) 敬老会

各町内単位で、総代会を中心に企画し、集会所や近くのお店を借りて、それぞれの町内独自の形で敬老会を実施している。

いずれも、お年寄りを招待して食事会を催したり、演芸を取り入れたり、記念品を渡すなどして長寿のお祝や親睦会を行っている。

小浜神社前で、西小浜の皆さん

お年寄りが増えていく現状で、各町内とも敬老会に招待する対象者の年齢の引き上げが課題となっている。

草間東は、敬老会についても草間町と合同で実施している。

(7) しめ縄作り

お正月が近づいてくると、中野校区市民館を会場に「しめ縄作り」の講習会が、社会教育委員会の主催で開催される。毎年多くの参加者が集まり、「しめ縄作り」に挑戦し、各自で持ち帰り各家庭で飾っている。

しめ縄作りに挑戦

(8) 子ども会活動

昭和60年（1985）４月、小学校誕生と同時に発足した。単位子ども会の数は５つ（草間東、小浜町、二六町、中野町、王ヶ崎団地）である。各町内の子ども会は、それぞれの町内で独自の活動をしている。豊橋市子ども会連絡協議会（市子連）主催の各種スポーツ大会の予選は校区の大会として実施している。

◎豊橋市子ども会リレー大会

- 昭和46年　準優勝　中野町男子
- 昭和49年　準優勝　中野町男子
- 平成９年　準優勝　小浜町女子
- 平成12年　準優勝　小浜町男子
- 平成13年　準優勝　小浜町男子

◎球技中央大会（ソフトボール大会）

- 昭和59年　優　勝　小浜町男子
- 昭和62年　優　勝　小浜町男子
- 平成13年　第３位　小浜町男子
- 平成16年　第３位　小浜町男子

リレー大会参加のメンバー（上、下）
（「子ども会50年のあゆみ」より）

(9) 老人クラブ活動

町内ごとに組織されており、活動もさまざまである。旅行、各種スポーツ（ゲートボール、グランドゴルフ、ペタンク等）、カラオケ、その他、健康に関わることが主になっている。

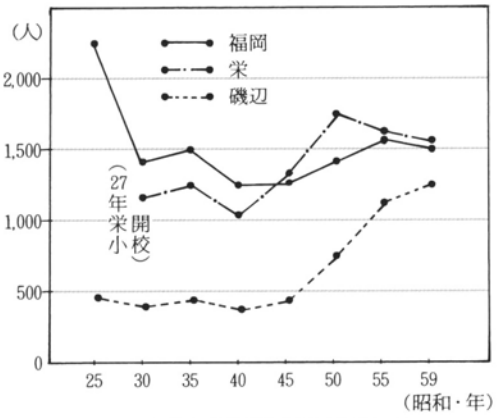
第3章　教育と文化

江戸時代の寺子屋　小浜村では、天保２年（1831）に近藤亀蔵が寺子屋（生徒12人）を開き、近隣の子供たちに習字等を教えた。また、万福寺の住職岡部朴道も寺子屋（生徒25人）を開き小浜の子供たちを教えた。他にも、橋良の正光寺の住職芳賀快眼や王ヶ崎の兵藤栄助の寺子屋があった。これらの寺子屋は、明治５年（1872）の学制の制定により翌年に廃止された。

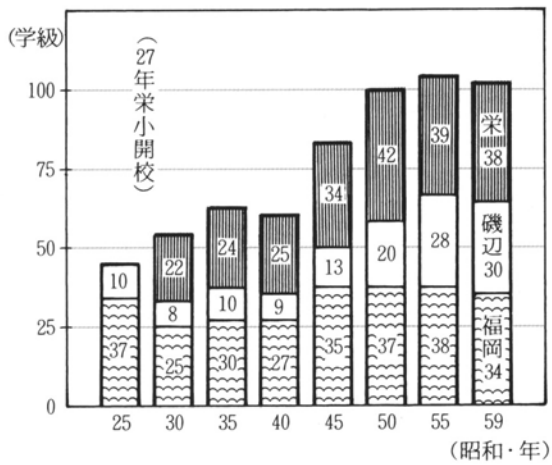
1　中野小学校の誕生

過大規模校の解消　南部地区の開発・発展と共に、昭和50年（1975）代の半ばには福岡小学校、磯辺小学校、栄小学校の３校とも30学級以上の大規模校となってしまった。

そこで市教委は、新設校を県立豊橋盲学校跡地と市営住宅の一部を敷地として、昭和60年（1985）４月開校と決め、昭和57年（1982）の盲学校解体工事、58年（1983）の整地作業、59年（1984）には校舎や体育館が建設さ



３校の児童数の移り変わり
（「福岡　むかしと今」より）



３校の学級数の移り変わり
（「福岡　むかしと今」より）

れていった。３小学校から661名の児童が集まり、市内49番目の小学校として中野小学校が誕生した。

栄校区では、南栄町内会のうちの１つ（五区）が新草間町として中野校区となった。

《中野小学校の通学区域》

小浜町、中浜町、東小浜町、藤沢町、潮崎町、神ノ輪町、中野町（字平北、字平西、字上新切）、橋良町（字向山６番地の２、６番地の４、16番地、~~20番地~~、20番地の１、20番地の４から20番地の６まで）、王ケ崎町（字上原、字甲垂、字四ッ塚、字万福寺東１番地から17番地まで・30番地から70番地まで・81番地から84番地まで、字築山、字八幡東１番地から48番地まで）、草間町（字平南、字平東、字郷裏）

【豊橋市例規類集「豊橋市立小・中学校の通学区域」より】

平成16年12月、字消し部分の削除とアンダーライン部分の追加改訂がされた。

《「豊橋盲学校」と「豊橋聾学校」のあゆみ》

- 明治33年（1900）　私立豊橋盲唖学校を開校
- 昭和20年（1945）4月　愛知県立豊橋盲唖学校となる（県立移管）
- 昭和21年（1946）9月　既に豊橋中学校（現、時習館高校）が借用中の富本町の元陸軍予備士官学校砲兵科跡の一隅に移転
- 昭和23年（1948）11月　愛知県立豊橋盲学校と愛知県立豊橋聾学校に分離独立
- 昭和26年（1951）12月　盲学校と聾学校の同居終了
- 昭和27年（1952）4月　盲学校は、富本町より中野町官有地へ移転完了
- 昭和30年（1955）9月　聾学校も草間町に移転、現在に至る
- 昭和56年（1981）3月　盲学校閉校式、中野町での29年間を最後に幕を閉じる

今では豊橋盲学校の面影は、中野小学校東門横に移築された「巣立ちの像」のみである。この像は、昭和40年（1965）9月に建立されたもので、名古屋の彫刻家早川収の力作、レンガの塔の上にはばたく白鳩の像である。レンガの塔には、「愛知県立豊橋盲学校は、昭和26年に移り来て、昭和56年の閉校までこの地に在った。思い出のためにこの像を残す。」と記されている。

「校名」と「校章」の由来

《校名》

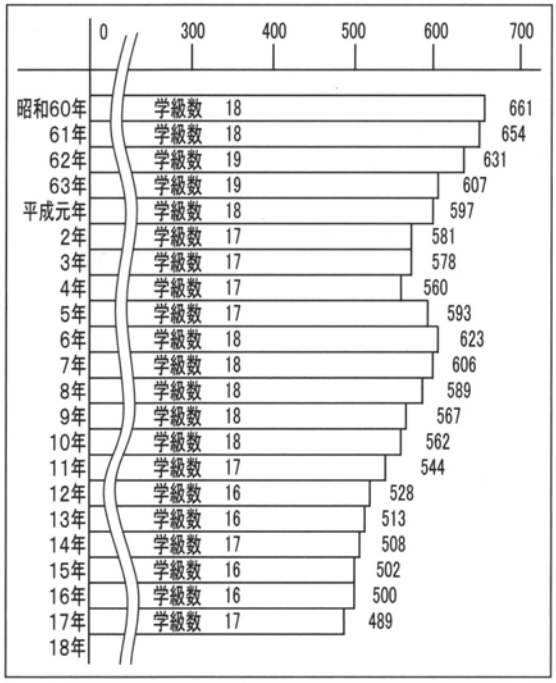
- この地区の地名であり、所在地がよく分かる。
- 校区民に親しみやすくなじみ深い。
- 言葉のひびきもよい。

開校時の中野小学校（「なかの」より）

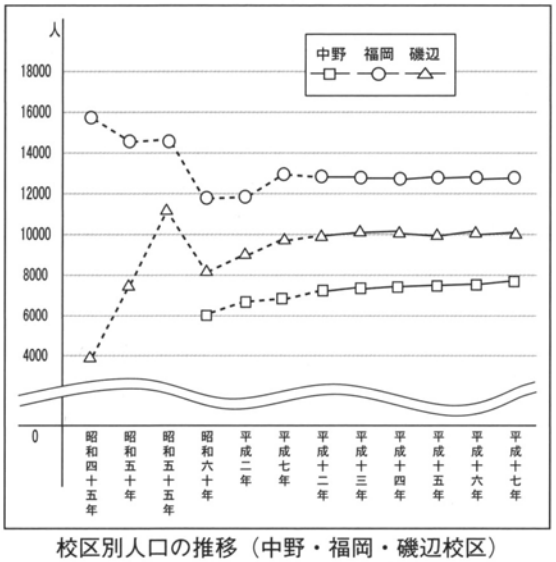
《校章》

- 「中の」の文字を図案化したもので、双葉（新芽）と根を形どっている。しっかりと根をおろし、どこまでも伸びゆく学校を象徴している。

校　章



中野小学校　児童数・学級数の変遷



校区別人口の推移（中野・福岡・磯辺校区）

2　中野小学校の教育活動

学校教育目標（校　訓）

なかよく　**か**しこく　**の**びゆく子

・よく考え　進んで勉強する子
・みんな　なかよく　助け合う子
・たくましく　明るく元気な子

めざす子ども像を前記のように考え、「なかの」の三文字で表した校訓。

前記の学校教育目標（校訓）は、開校以来継続して、中野の子の育成の柱となっている。

豊橋市立中野小学校校歌
作詞・作曲　田辺秀治

一
やさしい友を　見つけたら
がんばる友を　見つけたら
つよい友情　育てよう
そして　手をつなぐ
僕たち　かしこく　なかよく
のびゆく子

二
みどりの風は　吹いてるか
あおい海は　生きてるか
ゆたかな自然を　大切に
そして　かけてゆく
僕たち　かしこく　なかよく
のびゆく子

三
宇宙船から　メッセージ
平和を守る　地球の子
大きな希望を　育てよう
そして　飛びたつ
僕たち　かしこく　なかよく
のびゆく子

校歌「なかよく　かしこく　のびゆく子」

開校の翌年の２月に中野小学校の校歌「なかよく　かしこく　のびゆく子」が制定された。豊橋南部の高台にそびえる白亜（はくあ）の校舎で学ぶ子に託す夢。未来に向かって明るく強くのびる子ども像。豊かな自然の中ですこやかに育つことを願う親心。そして、21世紀に向けて新しい時代にふさわしい校歌にしたいと考え、作詞・作曲を桜丘高等学校の田辺秀治先生にお願いし、できあがったものである。発表時の新聞報道では、「校名や地名のない校歌」「のっちゃう　ジャズ風の校歌」と評された。21年経った今も子どもたちはこの校歌が大好きで、大きな声でスイングして歌っている。

（1）開かれた学校・特色ある学校づくり

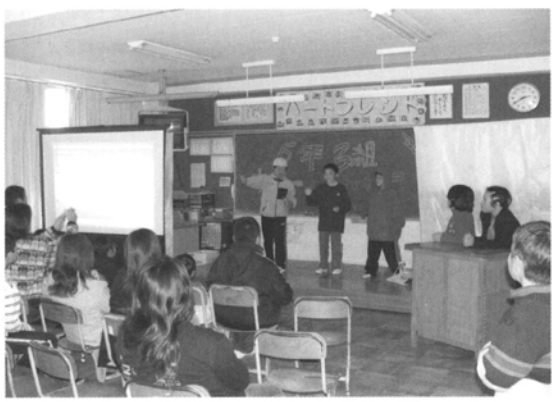
「中野フェスティバル」から「中野ふぇすた」へ　開校の昭和60（1985）年度から平成10（1998）年度まで中野フェスティバルと学芸会が実施されていた。

中野フェスティバルは、子どもたちが店づくりをして、思い思いにお店巡りをして楽しんだ活動である。

平成11年（1999）には、総合的な学習の時間の先取りとして、中野小学校では、福祉教育、環境教育などについての実践を始めた。そうした実践のまとめと発信の場として、中野フェスティバルと学芸会を統合して、新しく「中野ふぇすた」を立ち上げた。

中野ふぇすた、オープニング

中野ふぇすたは、総合的な学習の時間や生活科で学んだこと、体験したことをもとに、その学習の成果を発表する場である。学年または学級単位でテーマにもとづいたコーナーが設置され、それぞれコーナーを巡りながら、学習や体験ができるというものである。



中野ふぇすた、５年生の授業

しかし、学芸会がなくなり音楽的学習の成果を発表する場がないということで、新たに中野音楽会が設けられ、現在では児童集会の一つとして音楽集会と形を変えて継続されている。

交流活動

①作楽荘との交流

昭和63年（1988）校区に特別養護老人ホーム「作楽荘」が開設されるとともに交流活動が始まった。児童会の子どもたちが中心となって、作楽荘を訪問し、お年寄りの世話をしたり、学校のことを話して聞かせたりする交流を行った。

②豊橋聾学校との交流

作楽荘との交流と同じころから豊橋聾学校との交流を始めた。

耳が聞こえない、うまく話が伝えられないというハンディをもつ子との交流を通して、思いやりの心を学んできている。

学年ごとでの交流を中心とし、顔合わせ交流、ゲーム交流、音遊び交流での和太鼓演奏など進んで交流を図っている。

６年生との和太鼓交流

③日中（南通市）友好交流

南通市中国大使館公使表敬訪問（１）

南通市中国大使館公使表敬訪問（２）

昭和61年（1986）に中国人民対外友好協会訪日団を迎え、翌年には南通師範第一附属小学校の児童の作品や写真が寄贈された。

それ以後、中野小と附属小学校との作品交流が始まり、平成２年には南通市師範第一附属小学校において、本校との間に交流協議書が調印された。

【主な交流の歩み】

昭和61年	中国人民対外友好協会訪日団来校
62年	南通市人民政府代表団来校
平成２年	中国江蘇省南通師範第一附属小学校と姉妹提携を結ぶ
	南通市視察団11名来校
	南通市雑技団来校
６年	南通市第一師範附属小学校児童へ児童作品贈呈
９年	南通市との交流作品展
11年	南通市青少年友好訪日団来校
	中国大使館より感謝状授与
12年	南通市日中友好訪日団来校
	南通市報道関係訪日団来校
13年	南通市交流協議会来校
15年	中国大使館公使表敬訪問

学習環境の充実　子どもたちにとって自然に接することのできる学習環境の充実をめざし、中庭の整備は進められた。

飼育小屋、木の遊具、流水池、そして、ナンジャモンジャをはじめとする植物のある「わんパーク」が完成しました。草木が茂り、虫たちと共存できる環境（ビオトープ）の中に子どもたちの生き生きと遊ぶ姿を見ることができる。

○昭和60年　プール竣工
○平成３年　木の部屋新設
○平成８年　運動場全面改修
　　学習用コンピュータ設置
○平成10年　プール温水シャワー設置
○平成11年　わんパーク完成

中庭にあるわんパーク

学ぶ力を育てる研究委嘱　中野小学校は、開校と同時に特色ある教育をめざし、教職員が一丸となって研究推進を図ってきた。

○市委嘱「南陽中学校区生徒指導推進事業」
（昭和61年～62年：南陽中・中野小・磯辺小）
○市研究委嘱「学習指導（生活科）」
（平成元年、２年）
○市委嘱「豊かな心を育てる活動推進事業」
（平成５年、６年）
○ＮＨＫ並びに市研究委嘱「放送教育」
（平成６年、７年）

○市委嘱「福祉協力」
（平成９年～11年）
○県委嘱「夢が語り合える学校づくり推進事業」（平成12年）
○省エネ財団委嘱「省エネ教育推進モデル校」
（平成14年～16年）
○ソニー子ども科学教育プログラム応募
（平成15年～）

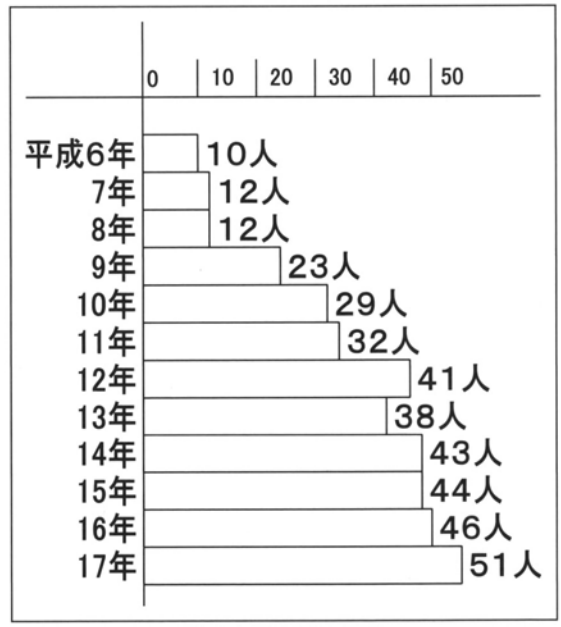
放送教育では、テーマを「目をかがやかせ、ともにつくりあげる学習活動ー情報交換の力をつけるコミュニケーション学習への取り組みを通してー」として、研究を進めた。そして、研究の中心を社会科、理科、生活科におき、テレビ視聴を中心に教育実践を積んだ。翌年の平成７年（1995）、放送教育全国大会を豊橋市で開催し、中野小の実践を発表した。

授業研究会風景

ソニー子ども科学教育プログラムでは、理科教育を中心に、環境・省エネ学習を取り込んだ総合的な学習を含め、中野小独自のプログラムを計画・実践した。

その結果、平成15年（2003）から３年連続努力校として評価をいただいた。

外国人児童の増加と国際理解教育　バブルがはじけて以後、豊橋にも外国人労働者が増加した。そして、その子どもたちが就学することにより、国際理解教育の必要性が高まった。中野小でも平成６年（1994）は外国人児童10人、平成９年（1997）には倍以上の23人となり、以後外国人児童数は増え続け、平成17年（2005）には51人となった。



外国人児童数の推移

平成７年（1995）に日本語教育適応教員が配置されたことにより、国際学級１学級が新設された。平成17年（2005）には国際学級は２学級に増設された。日本語を話したり書いたりできないブラジル、ペルー、フィリピンの児童を中心に国際学級に呼び出して日本語指導を行っている。しかし、日本語指導だけでは外国人児童は学習にはなかなかついて行けないため、算数や他の教科にも指導を広げ、外国人児童の学力向上に力を注いでいる。

外国人児童もいっしょに学んでいます

農園での栽培体験　校地の北側に農園を借り、各学年ごとに栽培体験を行っている。

オクラ、トウモロコシ、トマト、ミニトマト、ジャガイモ、サツマイモ、ダイコンなどを栽培し、畑や畝作り、苗植え、水やり、草取り、収穫などの世話をしている。

さつまいものつるさし

収穫したさつまいもで調理

しかし、子どもたちの世話だけでは収穫をあげることは難しい。そのため、近所に住んでみえる藤原さんが、畝作りや水やりなど支援者として指導・協力してくださっている。

その結果、夏場の雨の少ないような時でも収穫をあげ、子どもたちは様々に調理をし、収穫の喜びを味わうことができている。

(2) 中野小学校の教育を支えるＰＴＡ活動

なかの夏まつり　平成12年（2000）７月に第１回のなかの夏まつりが開催された。それ以後、継続して行われている。

中野校区では、祭りや盆踊りなどは各町内ごとに行われ、校区の子どもが一堂に会して参加できるものはほとんどない。なんとか中野の子どもたちみんなで、夏の一日を楽しく過ごさせてやりたいという願いから始まった。

ゲームを楽しむ子どもたち

ＰＴＡを中心に総代会、社会教育委員会、更生保護女性会、民生児童委員会、体育委員会、老人クラブなどの各種団体をはじめ中野文化協会の協力で実施されている。

まつりは２部構成になっていて、１部は飲食コーナー、ゲームコーナー、ものづくりコーナーで賑わう。また、総合的な学習の実践体験として、５・６年生児童によるコーナーも出店される。

飲食コーナーで販売を担当するみなさん

第２部は、アトラクションとして南陽中学校の和太鼓部と吹奏楽部の隔年参加、中野小学校のトランペット鼓隊、バトン部、和太鼓クラブ等が参加して盛り上げてくれている。

演奏をする中野小和太鼓クラブ

国際交流会　ＰＴＡ教養部を中心に、外国人児童やその保護者と日本の子どもや保護者と交流をもつ会である。外国人児童が増えてきたことに対応し、互いの文化を知り共有し合おうということで国際交流を図っている。

ＰＴＡが主催する国際交流会

中野小おやじの会　平成15（2003）年度に、ＰＴＡやそのＯＢであるお父さん方が集まって結成された。子どもたちの成長を最優先に願い、中野小ＰＴＡの応援団として活動している。主な活動に、夏休みの「学校お泊まり会」、秋の「ナイターソフトボール」などがある。平成16（2004）年度からはＯＧの方も参加している。

学校お泊まり会で炊き出しをする皆さん

お泊まりは、親子一緒にテントの中で

3　中野の文化活動

（1）中野文化協会の活動

中野文化協会の誕生　昭和も終わり、年号も平成と改められた頃、高度経済成長とめざましい文明の発展で、町内の人々の会話の中に、「文化」の必要を感じ始めていた。

文明盛えて文化滅びる、いまわしい事件も多く、文化活動の重要性が話題になっていた。

豊橋市市民文化部、関係の部署より文化協会の設立と文化活動の重要性が指導された。

中野校区においては総代会長が文化協会の設立に努め、校区内の諸会合においてその必要性を述べた。そこで第一番に中野校区社会教育委員へ依頼した。社会教育委員は社教と文協とは活動の範ちゅうも違い、余裕もないと断りがあった。

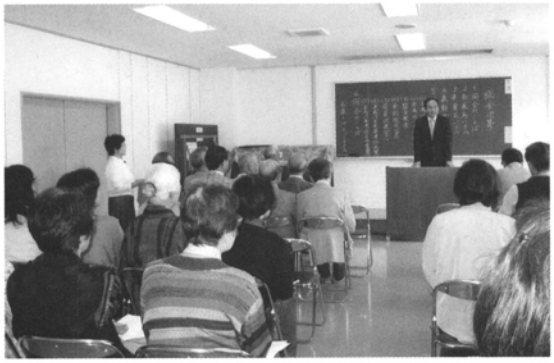
文化協会は自主独立の組織で活動することが望ましいという意見が多く、更生保護、オトギの国（読み聞かせの会）、社教、その他の組織の役員の方々に文化協会設立準備委員（発起人）を募った。

平成元年（1989）当時、豊橋市内には50の校区があったが、文化協会が設立されていたのは８校区であった。準備委員は先達の文化協会を訪ね、指導助言をいただいた。設立するならば、どこにも負けない活動しやすい文化協会を設立しようと、準備委員は意欲的に調査研究した。平成２年（1990）６月30日、７月９日・25日と徹底的に審議を重ねた。また役員の候補についても考えた。

平成２年10月18日、会則や役員も決定し正式に中野文化協会が誕生した。11月から会員の募集に準備委員は走った。12月末までに正会員101名、賛助会員21名が入会した。

会費は、正会員は年額500円、賛助会員は1，000円で出発した。

17年度現在まで会費は値上げしていない。



総会での来賓ごあいさつ

総会アトラクション（バグパイプ演奏）

会員数の変遷　正式に中野文化協会が誕生した平成２年10月18日の会員数は、前記の通り正会員101名、賛助会員21名であった。平成６年（1994）には、創立５周年記念の記念誌「五年のあゆみ」発刊、創立以来５年勤続功労者表彰を行った。その時の会員数は200名、賛助会員は50名に発展した。以後若干の増減はあったが、平成11年度（1999）の正会員は201名、賛助会員70名、平成15年度には正会員184名、賛助会員69名と推移してきた。そして、平成17年度（2005）の正会員は197名、賛助会員は70名である。努力目標は500名である。

主な活動

①活動の柱

文化協会の活動と言えば、書道教室、絵画教室、音楽教室等々多種多様な学習教室が設けられ、会員はそれぞれの教室に所属して活動するのが一般的な形である。

中野文化協会は、準備委員会において習う

教室について審議された。指導者も当てがなく、加入者も少ないかもしれないが、文化活動の啓発と興味・関心を持ち、その活動を通して人と人との輪をひろげ、町内における生活に潤いを与えられるようにと考えた。講演会、講習会、奉仕活動、研修旅行、会員交流会、会員親睦会等を活動の柱として、年間の行事計画をたて総会において審議決定して活動してきた。

②講演会・講習会

文化の啓発と興味・関心を高める意図をもって講演会・講習会を年間に１～２回計画し、広く会員の参加を求めてきた。

今までに実施してきた主な講演会をあげると、米の話、酒と料理と健康、廃品利用、等がある。講習会としては、手袋人形、絵手紙、切り絵、折り紙、布花、草木染め、籐工芸、お茶、コサージュ等がある。

講習会「籐工芸」の様子

講習会の後、継続して学習したい人が多ければ教室として組織してきた。今までに絵手紙教室、陶芸教室、フラワーアレンジ教室、布花教室、コサージュ教室等が生まれた。

③研修旅行

人間はいやなこと、嫌いなことは続かないものである。楽しみながら勉強する、旅は道連れで人の輪が広がる。その旅は、文化活動の刺激となり下地となる。原則としてバス１台をチャーターして日帰りで実施してきた。

研修旅行先の選定は役員会において、広く会員の希望等を集約して決定する。

文化的遺産、神社仏閣、歴史的なものを中心に実施してきた。平成２年（1990）の文化

研修先「なばなの里」にて

協会誕生以来実施してきた研修旅行地や内容をあげてみると、小原和紙、紙すき実習、大正村見学、名古屋港水族館、日泰寺、大竜寺、浜松市美術館、お茶の郷、曼陀羅寺の藤、陶磁資料館、メナード美術館、渥美郡施設巡り、彦根城、伊賀上野城・甲賀、平山郁夫作の大唐西寺壁画、唐招提寺、薬師寺、新美南吉記念館、深奥山方広萬寿寺、萬松山龍潭寺、小堀遠州作の庭園、中部国際空港、なばなの里、鶴林山大御堂寺（通称、野間大坊）等々である。

日帰り研修旅行では時間的に制限があるので、一泊研修旅行の希望もあるが、今後の検討課題となっている。

④奉仕活動

中野文化協会の最大の特徴は、同協会誕生以来継続してきた、中野小学校の卒業生に贈るコサージュ作りである。

卒業式に向けてのコサージュ作り

布花教室のメンバーを中心として会員の希望者を加えて、数日にわたって作成にあたり完成して中野小学校に贈呈する。卒業生の胸につけていただく立派なコサージュである。胸に立派なコサージュをつけて入場する我が子を見て、感涙にむせぶ保護者も多い。

文化協会が継続して取り組んできたコサージュ作りが評価され、平成14年２月９日、ライフポートとよはしにおいて、教育長と民生委員児童委員連絡協議会長より、青少年の健全育成活動に貢献したと表彰を受けた。

賞状

中野文化協会　様

貴団体は青少年の健全育成活動を積極的に推進し社会のために奉仕されましたその温かい情熱と実践は他の模範でありますので賞します

平成十四年二月九日

豊橋市教育長委員会
教育長　地宗一郎

豊橋市民生委員児童委員連絡協議会
会長　酒井稔

⑤会員交流会・親睦会

顔を知る、話をする、食事を共にする、人と人との輪を広げ、帰属意識を高め活動をなめらかにするのが目的である。

恒例として毎年12月に会員交流会、１月に会員親睦会を行ってきた。

会員交流会は食事を共にして、お互いの談笑の中にカラオケやゲームで楽しんでいる。

会員親睦会は毎年１月に行うため、新年宴会とも呼ばれ、小学校・中学校の先生、総代、関係諸団体の役員、賛助会員、地区委員の方々のオールスタッフの出席で、恒例の会になってきている。

⑥文化祭

市内には52校区あって、ほとんどの校区が校区市民館を中心に、文化祭が行われている。文化祭の内容は会員が作った作品の展示と、日頃練習を重ねてきた芸能を発表するのが一般的な文化祭である。しかし、中野文化協会では秋に作品展を実施し、春に芸能発表・ひなまつり茶会と、秋と春の２回に分けて実施してきた。

中野文化協会は、市民館まつりの主催団体の一つとして積極的に参加・実施してきた。

《作品展》

中野文化協会創立10周年にあたる平成11年（1999）は、９月25～26日に実施した。作品展の出展状況は次の通りである。

書道８、絵画９、写真・押し花10、アレンジフラワー11、陶芸10、布花５、親子習字11、絵手紙13、手芸小物13、洋裁編み物11、籐・皮工芸７、着付け・組みひも１、生け花４、書道教室24、小学校布花クラブ９の合計146点もの作品が展示された。

年々充実してプロ顔負けのような作品も数多く、この作品展は中野小学校の運動会に合わせて行うため、若い方々の見学も多く、２日間で300余名の方が見学して大変にぎやかである。このことは、会員のレベル向上の証でもある。

作品展の様子

《芸能発表・ひなまつり茶会》

芸能発表・ひなまつり茶会は、毎年２月下旬または３月初旬の日曜日に行う。

平成14年度の芸能発表会の演目を見ると、童謡１、歌謡24、詩吟１、琴３、舞踊24、紙芝居１、民踊１、ダンス１の56演目であった。

中野小児童の和太鼓演奏

毎年多くの参加者で賑わうばかりでなく、子どもの参加が発表会を盛り上げている。中野小学校児童による、和太鼓の演奏も大変好評である。

すばらしい歌声、コーラスの皆さん

ひなまつり茶会は中野文化協会独自のもので、ひなまつりのお茶会ということで創立以来行ってきたものである。

お茶券は１枚300円、毎年500枚を売りさばき盛大に実施してきた。３年前より中野小学校のお茶クラブの児童も参加して、楽しいお茶会となっている。

落ち着いた雰囲気のひなまつり茶会

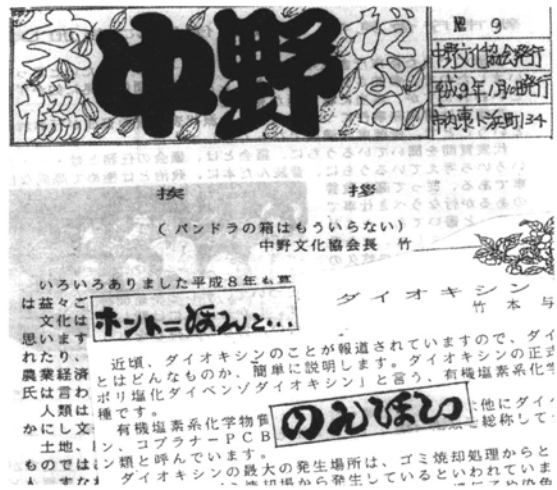
継続は力なりと言われるが、毎年毎年恒例として、また年中行事として実施してきた。回を積み重ねるに従い、出品点数も内容も充実し、見る人の心に刺激と感動を与え、その作品を媒体として会話ははずみ、人を知ることにもつながり、生活の質の向上をはかることとなってきた。

文化協会の活動として中心をなす、ものを書く、描く、彫る、作ることの醍醐味はまた格別である。

平成17年度作品で見ても、その充実度が分かる。書、絵、写真・押し花、スポットライト、手芸・小物、洋裁・編み物、生け花、革工芸、教室の作品（絵手紙、パッチワーク、布花、ペン習字、アレンジフラワー、書道、手ぶくろ人形、日本画）、にこにこひろば、市民館講座作品、中野小学校クラブ作品（押し花、布花、生け花、竹細工、籐工芸）、中野文化協会講習会作品（プリザーブドフラワー）と盛りだくさんであった。

⑦機関紙「中野文協だより」

中野文化協会の活動のお知らせ、啓発などを目的に７月、１月の年に２回発行している。配布は正会員、賛助会員に中野校区７町内の約200の組へ１部ずつ配布回覧をお願いしている。従って500部印刷している。１枚を二



ホント・のんほいの「中野文協だより」

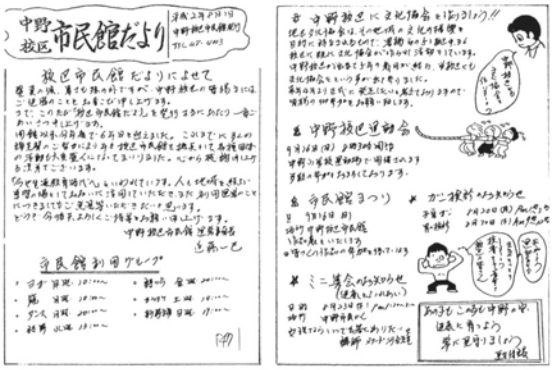
つ折り、表裏を使い4ページのささやかな機関紙である。編集の方針は〈カルチャーのんほい〉、〈ホント＝ほんと〉は継続し、他は活動のお知らせ等、担当の庶務係の裁量によって編集している。

(2) 中野校区市民館の活動

昭和60年（1985）中野小学校が開校すると同時に、体育館下の校区市民館も開館した。日々、サークル活動の場として、諸会合の場として、子どもたちや地域の方々の研修や憩いの場として多くの方々に利用されてきた。

開館から5年後の平成2年（1990）からは、「中野校区市民館だより」が発行された。

同年11月には、中野文化協会が発足した。同年からは市民館まつりが始まり、作品展が



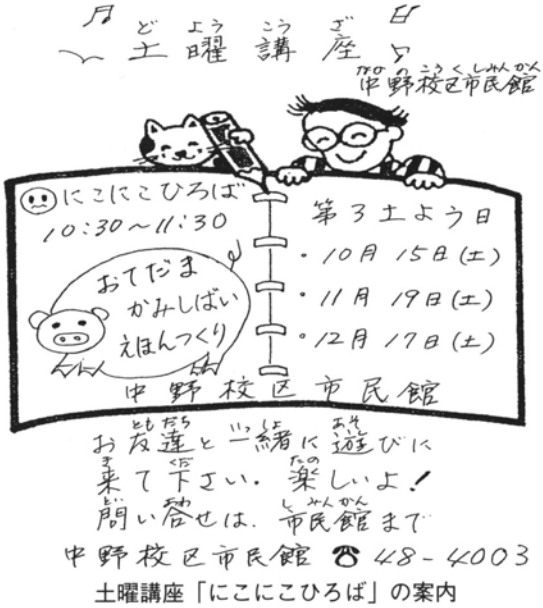
平成2年、文協の会員募集をする

行われた。翌3年（1991）からは芸能発表会や茶会も加わり、平成17（2005）年度には第16回の文化祭（市民館祭りを平成3年度より改称）が開催されている。

今では、市民館運営委員会と中野文化協会の共同主催で、作品展や芸能発表会とひな祭り茶会が盛大に開催されている。

また、市民館を利用して活動しているグループは、長い年月の間には流行もあり、無くなったものもあれば、新しく加わったものもある。平成17年の利用グループは、卓球、自彊術、空手、スポーツダンス、ヨガ、ストレッチ、書道、カラオケ、世界の民族舞踊、太極拳、キッズダンス、英会話、ダンス、囲碁、アレンジフラワー、民踊、絵手紙、ペン習字、日本の歌、布花、絵本の読み聞かせ、合唱、手芸、コーラス、パッチワーク、日本画、新舞踊など多彩である。

また、子どもを対象とした講座は、夏休みや土曜日等を利用して様々なものが開催されてきた。



土曜講座「にこにこひろば」の案内

夏休み講座「竹細工（水鉄砲）」講師の先生と

囲碁、手芸、押し花、アレンジフラワー、竹細工等々開催され、多くの子どもたちが地域の大人に教わり、地域との絆を深めてきている。

中野校区に関わる歴史年表

元　号	西　暦	日本・豊橋周辺	中野校区と周辺のできごと
縄文	BC10000	牛川人	
		天伯町三和遺跡	
	BC8000	嵩山蛇穴遺跡	
	BC5000	石塚貝塚	小浜神明社付近に人間が住み始める（小浜第３号貝塚ができる）
			第１号貝塚ができる
			小浜貝塚の規模が大きくなる（第２号貝塚、第４号貝塚ができる）
弥生	BC200	瓜郷遺跡	柱三番町付近で弥生時代の大集落ができる
古墳	AD500	長火塚古墳、車神社古墳	万福寺古墳、磯辺王塚古墳、牟呂王塚古墳などができた
大化１	645	大化の改新	
和銅３	710	都を奈良へ移す	藤沢町から柱町にかけて条里制の水田が広がる
和銅８	715	三河の国地震、三遠国境付近が震源M6.7	
天平４	752	東大寺大仏開眼	
延暦13	794	都を京都に移す	
		豊橋市南部古窯址群で平安時代の灰釉陶器が作られる	小浜３号貝塚上層で灰釉陶器が発見されている
延暦18	799	天竺人、綿の種子三河へ	
永久年間		豊橋市南西部古窯址群で平安末から鎌倉・室町時代の陶器が作られる	橋良東郷古窯址からは行基焼第１形式（平安後期）の土器が出土
			橋良御厨（伊勢神宮領）が開かれる
寛治５	1091		万福寺創建
建久３	1192	源頼朝征夷大将軍となる	万福寺、源右大将（頼朝）より18貫300文を受ける
建久10	1199		小浜神明社が伊勢神宮を勧請し創建
元弘３	1333	鎌倉幕府滅びる	
建武３	1336	足利尊氏幕府を開く	
寛正５	1465	この頃から今川氏と三河国人との抗争が三遠国境で続く	万福寺の墓地や王ヶ崎町四ッ塚には、室町時代前後の積上五輪塔や宝篋印塔が残っている
応仁１	1467	応仁の乱	
明応７	1498		６月大地震津波来襲
永正２	1505	牧野古白、今橋城を築く	
大永２	1522	牧野伝蔵、今橋を吉田と改める	
享禄２	1529	松平清康、東三主部を治める	
天文12	1543	鉄砲伝来	
天文15	1546	今川義元、吉田城を落とす	
永禄３	1560	桶狭間の戦い	
永禄５	1562	吉田城におかれた人質が殺される	十三本塚の悲劇
天正18	1590	池田輝政、吉田城主となる	
慶長５	1600	関ヶ原の戦い	
慶長６	1601	東海道に傳馬制・吉田宿誕生	
慶長９	1604	東海道に松並木	幕府三河各村を検地
寛永１	1624	田畑永代売買の禁制	小浜神明社の棟札１枚、橋良神社の中にある
寛永12	1635	参勤交代の制度	
寛永14	1637	島原の乱	
		新銭座で寛永通宝を鋳造	
慶安２	1649		草稿に「橋良村小郷を割きて小浜村と為す」と書かれ、この頃小浜村が橋良村から分離したことがわかる
			分村した小浜村、小浜神明社を氏神とする
寛文３	1663		清須新田ができる
寛文７	1667		松島新田開発
貞享１	1684		上ノ原新田（牟呂支配地字北山）高117石６斗８合を開拓
宝永４	1707	富士山大噴火、地震で吉田城本丸御殿倒壊	地震津波で堤防決壊（品井潟・広島等没入）
享保14	1729		塩田を開く
寛延４	1751		小浜神明社境内ノ「庚申」の記年銘、寛延４未年10月吉日とある

元　号	西　暦	日本・豊橋周辺	中野校区と周辺のできごと
宝暦２	1752	藩校時習館創設	
天明３	1783	浅間山大噴火、天明の大飢饉 吉田町内に火消組設置	
寛政２	1790		松王新田完成
寛政８	1796		小浜神明社に弁財天の勧請（明治初年に市杵島社と改名）
寛政11	1799	寛政の改革	小浜村から訴状がでる「乍恐口上之覚」
文化６	1809		小浜村より助郷役について嘆願書（乍恐以書付奉願上候覚）でる
文化12	1815		万福寺の観音講中常夜塔の銘「文化12年」
文政８	1825	異国船打ち払い令	
文政11	1826	百姓一揆打ち壊ししきりに起こる	小浜神社境内、庚申の前にある献燈に「庚申講中、文政11年９月吉日」とある
文政13	1830	おかげ参りの流行	牟呂に伊勢大神宮の札が降った
天保２	1831		近藤亀蔵小浜村で寺子屋を開く
天保３	1832	天保の飢饉	
天保８	1837	大塩平八郎の乱	
天保15	1844		小浜神明社入口左に常夜塔建つ「秋葉山、牛頭天王、大神宮村中安全、天保15辰９月吉日」
弘化３	1846		草間村王ヶ崎（磯辺王塚）において銅鉄器でる(2.17)
弘化４	1847		東小浜の大池南西に御神燈建つ「弘化４年」の銘
嘉永１	1848	吉田藩渥美郡百々村に砲台設置	
安政１	1854	日米和親条約	安政の大地震、吉田城内の建物多数倒壊
慶応２	1866	蓑着騒動	
慶応３	1867	ええじゃないか大流行	牟呂に伊勢大神宮の札が降り、「ええじゃないか」が全国的な流行となる
明治元	1868	明治維新	
2	1869	吉田藩を豊橋藩と改称(7.14) 額田県に郵便制度(11.5)	
3	1870	国民全員に姓氏を許す	
5	1872	学制頒布、太陽暦	額田県管轄第五大区内二小区小浜村戸籍帳、壬申正月改、村控
6	1873	徴兵令、吉田城消失	
7	1874	愛知県になる	
9	1876	廃刀令、地租改正	
10	1877	西南戦争、第八国立銀行設立	
11	1878	郡区町村編成法公布	橋良村、小池村、小池村持地高足分地、山田村、小松新田、佐藤村、小浜村が合併して、福岡村(12.28)となる
18	1885	吉田城跡に歩兵18聯隊設置	
19	1886	学校令四カ年義務教育	
21	1888	市町村制公布、東海道線豊橋駅開設、牟呂用水完成	
22	1889	大日本帝国憲法発布 豊橋町の成立	
23	1890	府県制公布、第一回帝国議会、毛利新田完成	
24	1891	日清戦争起こる	
26	1893	神野新田竣工、豊橋電灯設立	神野新田築堤に小浜貝塚の貝を使用
33	1900	私立豊橋盲学校開設	
37	1904	日露戦争起こる	
39	1906	豊橋市制を施行	福岡村、磯辺村、高師村、植田村、野依村、大崎村が合併して、高師村となる
40	1907	第15師団を誘致決定(3.21) 小学校令改正、６年義務教育(3.21)	12月より第15師団敷地の工事開始
41	1908	市内に電話開通	第15師団編成完結(11.15)、師団道路開設
42	1909	義務教育６年を実施	騎兵第４旅団創設（騎兵第25聯隊、第26聯隊）
大正３	1914	第一次世界大戦に参戦	
7	1918	米騒動	
12	1923	関東大震災	

元　号	西　暦	日本・豊橋周辺	中野校区と周辺のできごと
大正13	1924	普通選挙法公布	
14	1925	第15師団廃止	騎兵第４旅団（第25、第26聯隊）は存続
昭和４	1929		磯辺耕地整理組合設立
昭和６	1931	満州事変起こる	
7	1932	5.15事件	騎兵第25聯隊・騎兵第26聯隊満州事変に参戦 磯辺耕地整理組合工事完了 高師村、豊橋市に合併(9.1)、合併に伴って大字を町に改称(小池町、橋良町、富本町、小浜町、王ケ崎町、中野町、向草間町、草間町)
8	1933		南部土地区画整理事業（橋良町、富本町の一部、小浜町）始まる(10.1)、昭和26年まで
9	1934	人毛工場誘致問題	福岡町が生まれる
昭和11	1936	2.26事件	豊川河港・前芝港・牟呂港・大崎港を統合し豊橋港に
12	1937	日中戦争起こる	
14	1939		都市計画路線大崎線開通
15	1940		太陽航空工業4,900坪敷地確保
16	1941	太平洋戦争起こる	
17	1942	食糧管理法施行	太陽航空工業は海軍管理工場に
19	1944	東南海地震M8.0(12.7) 名鉄豊橋～岐阜間開通	太陽航空工業敷地面積５万坪に拡大
20	1945	三河地震(1.13)、 豊橋空襲(6.19)、終戦(8.15) 私立豊橋盲唖学校が愛知県立豊橋盲唖学校となる	空襲により小浜神明社本殿消失、太陽航空工業も被爆(6.19)
22	1947	教育基本法の公布（六・三制実施）、農地改革	小浜第一貝塚を紅林弘が発掘
23	1948	愛知県立豊橋盲唖学校が豊橋盲学校と豊橋聾学校に分離独立	
24	1949		ユタカ鋳造株式会社操業
25	1950	朝鮮戦争起こる 第５回愛知国体	豊橋盲学校は、富本町より中野町官有地へ、昭和27年移転完了
26	1951	サンフランシスコ平和条約	藤沢町、潮崎町、神ノ輪町、小浜町（字なし）、東小浜町、中浜町と改称(11.1)
27	1952	日米安全保障条約	建設省中部地方建設局豊橋工事事務所開設（中野町） 中野町に市営住宅１戸建40戸新築
28	1953	13号台風(9.25) テレビ放送開始	13号台風の高潮で二回新田の堤防決壊、藤沢町小浜町など浸水 福井酒造株式会社が田原市福江から、山口毛織株式会社が菰口町から移転
29	1954	豊橋産業文化大博覧会	
30	1955		豊橋聾学校は、富本町より草間町へ移転
31	1956	国連加盟	泰東製綱株式会社豊橋工場が東新町から移転
33	1958		小浜神明社本殿再建
34	1959	伊勢湾台風	
36	1961		ユタカ自動車教習所（中野町）開設
39	1964	オリンピック東京大会	豊橋スポーツセンター（藤沢町）開設
41	1966	百円紙幣廃止	
43	1968	霞ヶ関ビル（36階）完成 東海道新幹線開通	豊川用水通水により灌漑用の昭和池が不要となり埋め立て
44	1969	東名高速道路開通、豊橋で竜巻、死傷者65人	南部学校給食共同調理場完成
45	1970	日本万国博開催（大阪）	
47	1972	札幌冬季オリンピック大会開催 沖縄県発足、27年ぶり復帰	師団水路改修工事完了
48	1973	関門橋開通、オイルショック	
49	1974	豊橋港開港	山口毛織跡地の住宅地分譲を開始
50	1975	530運動開始	中野町字平北にショッピングプラザマルヨ開店
51	1976	市制70周年	草間町字東山に愛知県豊橋勤労福祉会館開館 県営王ヶ崎団地が建築される（～52年）

元　号	西　暦	日本・豊橋周辺	中野校区と周辺のできごと
昭和53	1978	豊橋市役所完工式 成田空港（新東京国際空港）開港	藤沢町のスポーツセンターにイトーヨーカドー豊橋店開店
55	1980	豊橋市資源化センター（ユーレックス）竣工	
56	1981		豊橋盲学校閉校式、ホリデイ・インホテル豊橋開業
57	1982	五百円硬貨発行	中野町字平西に建設省中部地方建設局豊橋工事事務所（現、国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所）移転
58	1983		市営中野住宅（鉄筋５階建て）が建築される（～62年）
59	1984	青函トンネル貫通	南部（草間）地区体育館開館
60	1985	豊橋市「緑の都市賞」受賞 豊橋日中交流協会設立 大鳴門橋開通	中野小学校開校・南陽中学校開校、中野校区市民館開館 新草間町発足 ホリデイ・インホテル豊橋、ホール、シアター開館
61	1986	市制80周年 三河港・神野大橋開通 豊橋鉄道渥美線小池隧道完成	第１回校区体育祭 中野小学校水泳部市内大会優勝　中野小学校校歌制定 中国人民対外友好協会訪日団が中野小学校を訪問
62	1987	豊橋・南通と友好都市提携	南通市代表団中野小学校へ来校(5.27) 南陽地区市民館開館、中部電力王ヶ崎変電所使用開始
63	1988	自然史博物館開館 豊橋車検場開始、豊橋ナンバー車	老人福祉施設特別養護老人ホーム「作楽荘」開設
64/平成1	1989	昭和天皇崩御(1.7)、平成と改元(1.8) 総合体育館開館 消費税３％実施	南部地区体育館を草間地区体育館と改称 中野小学校が南通師範第一付属小学校と姉妹校に
2	1990	豊橋子供自然公園野外恐竜ランド開園	中野町字上新切に豊橋南郵便局開局、廃土を中野小学校に運びドロンコ山を作成 中野文化協会誕生、第１回市民館祭 ホリデイタワー（地上30階120m）完成
3	1991	二川本陣資料館開館	
4	1992	万場調整池に水の展示館開館	学校週五日制開始（第一土曜日）、ＦＭ豊橋設立
5	1993	豊橋市35万人都市へ 桜丘中学校再開 豊橋市役所東館・市民病院工事開始	中野小学校「豊かな心を育てる活動推進事業」の研究指定 スクールアート 藤沢町にてＦＭ豊橋放送開始、作楽荘敷地内にケアハウス美光ハイム開設
6	1994	ライフポート豊橋完成 豊橋駅東口・西口駐輪場開場 若シャチ国体開催	中野小学校「放送教育全国大会」の研究指定 泰東製綱豊橋事業所閉鎖
7	1995	豊橋ケーブルネットワーク設立	
8	1966	東三河総合庁舎完成 市民病院青竹町に完成	
9	1997	地震（M5.6）豊橋震度５強 豊橋CATVティーズ放送開始 「こども110番の家」牛川校区で愛知県下初の実施	
10	1998	愛大旧本館・公会堂国登録建造物文化財に指定 EASブラジル人学校豊橋校開校	
11	1999	全国22番目の中核市へ 竜巻(9.24)	ホリデイ・インホテル豊橋に代わりホテル日航豊橋が開業
12	2000	２千円札発行	結婚式場マリエール開業
13	2001	石巻自然科学資料館改築完成	柱第二公園・鯰池改修完成
14	2002	資源化センター焼却炉完工	愛知県豊橋勤労福祉会館をアイプラザ豊橋に改称 南部学校給食共同調理場改修完成
15	2003	三河港国際自動車特区地域に認定	ホリデイスポーツクラブ開業
16	2004		新草間町と中野草間町が合併し、新たな新草間町発足 マックスバリュ開業
17	2005	愛知万博開催	泰東製綱跡地にマンションが建設され新中野町が誕生
18	2006	市制100周年	

参考文献

●「橋良村舊事蹟草稿」 芳賀吉雄　1888年　●「豊橋めぐり」 吉川利明　東三文化会　1982年　●「竜巻の記録」 豊橋市竜巻災害記録編纂委員会　豊橋市役所　2000年　●「福岡　むかしと今」 豊橋市立福岡小学校校区誌編集委員会　豊橋市立福岡小学校　1985年　●「世々に残さむ――豊橋盲学校80年の“生涯”――」愛知県立豊橋盲学校校史編集委員会　1981年　●「創立10周年記念誌　なかの」 豊橋市立中野小学校創立10周年記念事業実行委員会　豊橋市立中野小学校　1994年　●「愛知県立豊橋聾学校100年史『ひとすじ』」創立100周年記念事業実行委員会記念誌委員会　創立100周年記念事業実行委員会　1998年　●「わらべぐさ福岡のむかしばなし」 豊橋市立福岡小学校第33回卒業生　豊橋市立福岡小学校ＰＴＡ　1979年　●「ちぎりの子ども№13」 ちぎりの子ども編集委員会　豊橋市教育委員会青少年課　2004年　●「豊橋の町名の変遷」 吉川利明　豊橋文化協会　1976年　●「豊橋市南部農協20年史」 豊橋市南部農協20年史編集委員会　豊橋市南部農業協同組合　1986年　●「豊橋市史」 豊橋市史編集委員会　豊橋市　●「子ども会50年のあゆみ」 50周年記念事業実行委員会　豊橋市子ども会連絡協議会　2002年　●「改訂版　豊橋の歴史と文化財」豊橋市美術博物館　豊橋市教育委員会　1990年　●「とよはしの歴史」 豊橋市　豊橋市　1996年　●「豊橋市土砂災害ハザードマップ」 豊橋市　豊橋市　2005年　●「母なる豊川　流れの軌跡」 建設省豊橋工事事務所　建設省豊橋工事事務所　1998年　●「豊橋整地事業誌」 豊橋整地事業誌編集委員会　豊橋整地協会　1959年　●「豊橋市戦災復興誌」 豊橋市戦災復興誌編纂委員会　豊橋市役所　1958年　●「ふるさと　豊橋」 豊橋市校区社会教育連絡協議会　豊橋市校区社会教育連絡協議会　1979年　●「明治初期における豊橋地方の初等教育」 近藤恒次　豊橋市教育委員会　1940年　●「南栄町物語――軍隊の街から学園の街へ――」 水口源彦　1996年　●「牟呂史」 牟呂史編纂委員会　牟呂校区総代会・汐田校区総代会・牟呂史編纂委員会　1996年　●「豊橋市埋蔵文化財調査報告書　第18集・橋良遺跡」 豊橋市教育委員会　豊橋市教育委員会文化振興課　1994年　●「豊橋市埋蔵文化財調査報告書　第74集・東籠田古窯橋良東郷古窯」 豊橋市教育委員会　豊橋市教育委員会教育部美術博物館　2003年　●「豊橋市埋蔵文化財調査報告書　第43集・磯辺王塚古墳」 豊橋市教育委員会　豊橋市教育委員会文化振興課　1998年　●「みてわかる　高師風土記」 高師風土記刊行委員会　高師小学校　1976年　●「荘士　林　品次の生涯」 服部兼三郎　林　政蔵　1973年　●「三河遠江の歴史的研究」 歌川　学　歌川学遺作刊行会　1984年

中野校区史編集に携わった方々（以下敬称略）

■ **顧　　問**

兵東　政夫、竹本　與一、印南　敏秀

■ **ご協力をいただいた方々**

●小浜町総代　芳賀　正芳、●中野町総代　田中　正弘、●新草間町総代　補永　　隆（H16）、平井　早苗（H17.18）、●草間東総代　岡田　逸夫（H16）、鳥居　政彦（H17）、神野　孝一（H18）、●二六町総代　森田　大典、●王ヶ崎団地総代　大浦　利仁（H16.17）、伴野　順三（H18）、●新中野町総代　福井　高志（H17）、寺澤　祐介（H18）
他、多くの皆様方

■ **編集委員**

（委員長）芳賀　正芳、（副委員長）芳賀　健一、近藤　将紘、尾嵜　信之
（委　員）河辺　哲郎、三浦　敏雄、芳賀　紀臣、大森　信之

■ **サポーター**

本多　　功、松本八十二

《編集後記》

中野校区が誕生してからの21年を振り返り、校区を紹介する読み物としてまとめました。この校区は、古くから人々の生活が営まれてきた地域と、新しく発展してきた地域からなりたっています。草間地域に関する資料が少なかったため、小浜地域の記述が多い紙面構成になってしまいました。編集にあたり、多くの皆様方にお世話になりましたことに、改めて感謝を申し上げます。

校区のあゆみ　中野

平成18年12月25日発行

編　集　中野校区総代会
　　中野校区史編集委員会
発　行　豊橋市総代会
印　刷　共和印刷株式会社

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK

2006年
市制100周年
100th Anniversary Toyohashi City
つながり ひろがる 未来 豊橋